

会 長	事務局長	マネージャー	担 当

議 事 録

令和6年3月16日

記 録 者 名	総務部 山下朋子 山崎寛子
会 議 名	一般社団法人天草宝島観光協会 第5回理事会
日 時	期 日：令和6年1月29日（月） 時 間：14時00分～17時00分
場 所	天草宝島国際交流会館ポルト 2F 研修室
議 事 内 容	
出席者	出席理事：山本博、山下修平、江崎航、松本國雄、金子信之、田口京重、野崎健、野崎多喜子、濱崎宗治、田中光徳、藤本貴士、松崎義文、中田勝也、平下豊、深川隆一郎、濱崎英文、竹地克夫、下田貴久、宮下剛 欠席理事：本田晴美、倉田泰、深川沙央里、 出席監事：近藤雄一、本田一 事務局：福田祐司、古川雄一、野下正裕、山崎寛子、園田安仁、田中マキ（天草支部）
議事録署名者	会長 藤本貴士 監事 近藤雄一、本田一
1、開会	(古川) 皆様改めましてこんにちは。定刻となりましたので、只今より天草宝島観光協会第5回理事会を開会します。はじめに会長よりご挨拶をお願い致します。 (藤本会長) まず初めにですね、元日早々におきました能登半島地震に於きまして、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。同時に、一日でも早い復旧復興を祈念致します。また、今後ですね、復旧作業も進みまして、インプラントを整備した後にはですね、復興支援も兼ねて、ダメージの大きかった和倉温泉等にもですね、研修等を行っていいんじゃないかなと思っております。

まあ暗い話題でスタートいたしました。天草においては明るい話題も御座いまして、みなさんご承知のように、3月20日に御所浦の恐竜博物館がリニューアルオープンという事で、改めて新たな新観光スポットとして、沢山の観光客の方にお越し頂き、また御所浦の地域の活性化に繋がればなと期待しております。また倉岳地区もですね、棚底城跡も整備されるという事で、またガイド施設等も今後出来るという事なので、天草全体の回遊性も高まってですね、新たな魅力ある商品観光ルートを、商品を作りまして、また旅行会社等にも積極的にセールスを行って参りたいと思います。それでは本日も議題の方多く御座いますので、忌憚のないご意見を頂戴しながら議題の方進めていきたいと思っておりますので、どうぞ最後まで宜しくお願い致します。

(古川)

はい、有難う御座います。それでは早速3番項、協議事項ということで進めさせて頂ければと思います。議事進行の方は田口副会長、宜しくお願い致します。

(田口)

えーみなさんお疲れ様でございます。議事進行をやります。で、協議事項がいくつかあるんですけども、みなさんもお存じとは思いますが、12月に大塚さんはじめ城下さん、3名の方がですね、退職願を提出されたというようなことが御座いまして、そして局長に関してですね、執行部で集まりまして、ちょっと業務を一時ストップをさせて頂いたというような経緯も御座いますので、宜しければ1番2番につきましてはですね、変更のところをよく議論して頂いて、3番4番にですね、理事の皆さんのご意見を賜るような形が取ればという風に司会進行上思っておりますので、宜しくお願い致します。それでは1番項、5年度の予算の変更の部分をですね、要点だけ説明して頂ければと思います。

(古川)

はい、それでは事業部野下の方からご説明申し上げます。

(野下)

はい、事業部野下です。3-1と書いてある別紙の資料をご覧下さい。こちらがですね令和5年度の各支部の予算変更事業計画変更の資料になっております。で、特に予算変更とか事業経過の変更がないところには横棒とさせて頂いております。本渡新和支部につきましては協賛事業の楊貴妃祭り、竜の玉入れ選手権を中止にしまして、イベント支援として新和 deKANPAI になっております。これに伴って事業計画の方も修正をしております。牛深支部は事業計画の変更という事で観光景観整備の事業計画書を提出しております。有明支部は変更が御座いまして、天草東支部は御所浦地区の予算変更が行われております。五和支部は協賛事業の中止をしております。鬼池港観光案内の看板の撤去費用へ予算を振り分ける予定で御座います。あと五和支部の方は事業の中止でイルカの絵コンクールと協賛事業ですね。あと鬼の城公園まつりにつきましては天草プロレスと同日開催しておりますので、そちらの変更をしております。天草支部につきましては中止事業の予算をRKKまつり、伊勢えびまつりのPRに移動させております。これに伴って事業計画の方も変更しております。河浦支部は特に御座いませんでした。令和5年度の各支部予算変更事

業計画変更については以上です。

(田口副会長)

はい、今年度事業の変更の部分については宜しいですか。一応皆さんのご承認を得る事になっておりますので。よかですかね？

(各理事) はい

(田口副会長)

じゃあ2番項ですね、6年度の支部事業の計画と予算について、これについては今まで3回ほどですね、皆さんの方へ理事会の度にですね、市と協議をしていきながら、変更になった点を赤字でですね、皆さんの方へ報告をしているという風に思っておりますので、その点を見ながら今現状の動きについて分かる範囲をお願い致します。

(古川)

はい、では引き続き事業部野下からご説明を差し上げます。

(野下)

はい、令和6年度各支部予算変更と事業計画変更についてなんですけども、昨年9月か10月に市の方へは予算と事業計画の方を提出してはいるんですけども、市の方から参画企業の名前とかですね、支出の内訳とか、そういったところを具体的に記載して下さいという事で、各支部に話が行ってまして、今回は各支部に指摘された事項をメインに出してもらっています。本渡新和支部につきましては、予算変更という事で、紙面媒体印刷製本費と事務費の項目の金額を変更しております。事業計画につきましては事業計画の通年分のところと事業計画書の事業収入、収入内訳、支出内訳等を変更しております。牛深支部につきましては予算の変更は無く、事業計画の方で事業予算と支出内訳の変更を行っております。有明支部は特に指摘事項が御座いませんでした。天草東支部なんですけれども、栖本地区で倉岳鯛釣り選手権大会の事業費を5万円、地域おこし事業へ移動させております。後日あの、令和6年度予算変更の資料の方、天草東支部ですね、すいません、こちら天草支部になっておりますが天草東支部へ依頼するようにしております。今回資料が間に合いませんでしたので申し訳ありませんでした。これに伴って事業計画変更も、栖本の方が地域おこし事業、栖本地区観光パンフレット制作で5万円の事業計画を追加しております。倉岳の鯛釣り選手権の事業計画書の事業予算収入内訳のところも5万円マイナスで記載しております。御所浦は各事業計画の事業予算、事業参画者などの変更を行っております。五和支部につきましては予算の変更は無く、事業計画書の変更、事業計画とあと事業計画書の内容の拡充を行っております。天草支部は特に指定事項はありませんでした。河浦支部は予算の方が宣伝活動費の変更をされております。事業計画の方は宣伝活動費の事業計画書の事業の予算の変更しております。以上です。(8:54)

(田口副会長)

はい、他に補足はないですかね？大丈夫ですか？ はい、今令和6年度の変更を市のほうから少

し具体的なことを書きなさいということで、報告を受けて今、修正をした所ですけども、この案
です、お出しするということでもよろしいですか？

はい、ありがとうございます。

それでは、3番のですね事務局体制の現状報告と今後の体制案について。

(古川)

それでは3番の2ページ目をご覧ください。天草宝島観光協会事務局現状報告ということで、ま
とめております。かいつまんで説明させていただきます。ちょっと長くなりますが、要点のみ説
明いたします。まず1番ですね、事務局の現状報告の目的 今回の目的ですけども、理事会出席
者の皆さんに対して、事務局の現状を把握していただき、今後に向けてアドバイス、ご協力を受
けながら、当協会の立て直しを図るということを目的としております。で、これまでの経緯の部
分なんですけども、①ですね12月4日、総務の城下、中村が12月31日付で退職、並びに事業部
の大塚が1月10日付で退職ということが周知されました。で、次のページをご覧ください。

上から5行目ですね、それからの引継ぎはどうするんだ、という話し合いをしていたんですけど
も、3ページ目の2行目からですね、事務局長が引き継いだ内容を把握していなかったというこ
とで、仕事の割り振りができない状況であったということになっております。現状で言いますと、
その大塚・城下・中村の仕事内容を我々もまだ把握できていない状況にあるということござい
ます。

⑤の上3行になりますけども、残された大半の事務局職員は現在自分の仕事は手がつけられない
まま事務局外部への、関係各位にご迷惑をかからないことを最優先に、例えば支払いですとか、
そういったものを最優先におこなっている為、本来の業務が滞っているという状況に陥ってお
ります。現状報告については以上になります。(12:07)

(田口副委員長)

はい、少しご説明を申し上げますとですね、退職願いがお三人から出られまして、お三人とも一
身上の都合ということでございました。それで執行部もですね、各方々とお話をさせていただ
いたんですけども、お辞めになる決意が固いと。で、監督署ですね、労働基準監督署にも相談窓口
がございますので、相談に行きましてできる限り引継ぎだったり、あるいは契約の期間とか含め
てご検討いただけるような話しをしてまいりましたが、どうしてもご本人さんの意思が固いとい
うご報告でした。それで引継ぎについてはですね、きっちりと事務局長の方へ城下さん・大塚さ
ん、各マネージャーはやっていただいたということです。ところが、それをこれからやってい
こうと言う時に、中々、福田局長自身が全部を細かなとこまで把握できてないような状況だとい
うことで、いったんは補助金もわかる、あるいは少し経理もわかる、事業もわかるとゆうような方
も入れて、少し中身を精査して取り組んでいった方がいいんじゃないかということで、執行部と
話し合いまして、そういった人も入れながら、今後どうしていくかということで話し合いを続け
てきました。

で、これは今後の体制についてはですね、幸いに残った方々がいますということでございます
ので、その方々を中心に新たに採用した方を入れながら理事の皆さんのご意見も聞きながら進め
て行きたいという風に思っているところです。で、それでもしよろしければ、なんかその辺も含め

てご意見を頂ければという風に思っております。(14 : 34)

(松崎理事)

あの～すいません、ちょっとお伺いがしたいんですが、資料の2ページ目の所に、大久保さんの話題って出てくるんですけども、この大久保さんがなんですかその、観光協会としての立ち位置とか、そういうのどういう風になるか、これまでの経緯を含めてご説明いただければと思います。(15 : 24)

(田口副会長)

はい、調査をするのにですね、外部の方から入っていただいた方がいいだろうと、その中で少し観光事業にも目先が明るくて、あるいは学校事務とかをされてて、補助金の関係の経理ですね、あたりも目先が明るい方がいいだろうということで、ちょっと緊急を要するものですから会員の方々もこうそういう、インストラクターとかそういうの見回したんですけど、時間がないということもあってですね、大久保さんということで、執行部できめて、現状調査をしていただいたという(16 : 12)

(松崎理事)

そうするとあの、まあ業務委託のような形ですか？

(田口副会長)

そうです。

(松崎理事)

業務量に応じて委託料もお支払いされるということによろしいんですか？

(田口副会長)

そのように執行部では検討させて頂いて

(松崎理事)

現状はまだ、何かお手伝いしていただいているんですか？

(田口副会長)

今は、ある程度報告が上がりましたんで、今はしていただいておりません、ただ、調査をした時にですね、WEBとか含めてHPあたりとか含めて今もやり取りは少ししていただいているようです。

(16 : 54)

(松崎理事)

観光協会内の個人情報の取り扱いとか、そのあたりは万全に契約の中でしておられるということによろしいですか？

(田口副会長)

はい、執行部が知りえる範囲のですね、中で契約を結ばせていただいております。(17:16)

(宮下理事)

すみません、先ほどの付け加えなんですけど、大久保さんっていう方は一般企業の方とか、市役所の方とか、何かに所属をされたりとかされてるんですか？

(田口副会長)

いや、今は個人で事業をされているという形です。

(宮下理事)

そのかたも会員さんですね？

(田口副会長)

大久保さん自体は会員ではございません。(17:54)

(宮下理事)

ちょっとなんか、その大久保さんの出所とか経歴とかまったく何も説明がなかったの、どういう人なのかなっていうのを、もうちょっと詳しく分かればいいのかなんて思ったんですけど、はい、自分たちの個人情報とか色々あるわけで、その人はどういう方なのかなって、全く見えないので。

(山下理事)

すみません、私を知る範囲でお伝えしたいと思います。大久保さんに中に入っていたかということについてはですね、正副の会長会議でもわりと紛糾しました、中に入れてはだめなんじゃないか、という話もあることにはありました。元々、大久保さんも下田の出身で下田の旅館に勤めてらっしゃって、そのあと、本渡市内のホテルなどでWEBのアドバイザーなどをやられていたような方です。

で、実際ですね、中に入るのは会員、企業、基本的に業務委託するのは会員、企業でやっていたところなんで、そこら辺についても問題だというふうな形で紛糾は一旦しました。

ただ、これは言い訳になってしまいますが、時間がないという中で、大久保さんに入っていたか確認を頂いて引継ぎをしていただいたという事実がございます。

大久保さんにつきましては、観光協会に対して非常に批判的な所がありました。私を知る限りにおいて、ただですね、中に入られて、実際に業務の進め方ですね、城下さんたちの業務の進め方を確認されて、いや、ちゃんと仕事されると、大変な業務をこなしているというふうな形で報告をいただきました。一方ですね事務局長の方が、仕事をあまりしていないんじゃないかという形で報告をあげていただいております。ですので、経緯としては、私はあまりいい経緯ではなかったと思いますが、あげていただいた報告についてはぜひ、あの、時期をみてなのか皆さんに

お読みいただきたい。ほんとお辞めになった三人の業務内容、業務量、非常ににすばらしかったと、ここまでやっているとは思わなかったと言う形で報告を頂いております。これも、結果的にそういうものがいいものといえますかですかね、観光協会の業務について補強していただくようなお話をさせていただいたんで、大変ありがたかったんですけども、大久保さんが中に入った経緯については、皆様にお詫びしなきゃいけないという風に私は思っております。はい、以上です。(20 : 58)

(古川)

はい、これも私が知りえる範囲での話になりますけど、大久保さんが入られたと、私の感覚としては突然事務局にいらっしゃたのでなんだろうと、最初は思ったんです。まったく連絡もなにもなかったんで、どうしたんだろうと思ったんですけど、その話の流れで引継ぎがあると最初は聞いていました。ところがその引継ぎを行う途中でですね、大久保さんからお尋ねがありまして、実際事務局内は今どうなってますかと？お尋ねがあったので、正直に嘘偽りなく大久保さんにお話しさせていただいております。

それを踏まえたうえで、会長や執行部の皆さんに話を投げさせていただいたのは大久保さんであります。実際の中身ですね、個人情報とか使う部分に関してはおそらく触れられていないと、まっ結果論ですけど、この話がこうやって表ざたというか今回理事会に諮っていただくことは結果的に大久保さん（がきっかけ）かなという風に考えております。以上です。(22 : 38)

(田口副会長)

大久保君も河浦出身みたいで、であの今少しご説明はしたんですけども、局長を選んだのは、執行部でありますけど、前執行部で選定をさせていただいて理事会の方に承認を得ました。それで局長の状態が芳しくないって事を言われてもですね、中々、毎日来てるわけでもございませんので、把握が非常に難しゅうございました。

それで調査をしましたら逆になんでこがん状態でほっとつとですか？と言うなことで、指摘を受けてですね、これはいかんかということですね、毎週のごとく執行会を開いて対応したり、あるいは、今日おみえですけど、お願いあるいは市からの指示あたりを聞きに行ったりとか、言うな所で対応しているところです。だから先ほどの副会長が言われたように、本来であれば皆さんに了解をとってということなんですけど、なんせ、入社してこないという状況になって、じゃあどうやって業務を推進していくかって時にですね、少し現状を調査せんといかんかということ、進めさせていただいた案件です。(24 : 05)

-間-

(松崎理事)

年末からですね、観光協会事務局も管理職の方が二人いっぺんに辞められたということで、非常に事務局の中も今大変な状況だと思います。先ほど田口副会長からありました残った人がですね、頑張りたいといった気持ちということを聞きましてですね、私としてもですね。

大変ありがたいというふうに思っております。業務の中では、市と関係するような業務も随分あ

ろうかと思しますので、わたくしどもの方ですね、できるだけ残った事務局の皆さんの負担を軽減できるように協力して調整できるところはですね、やっていきたいというふうに思っております。やっぱりあの、観光協会の中で事務局は要になる組織だろうという風に思っております。今回、こういった結果になりましたけれども、私たち理事にもですね
今回のことを踏まえて、やはりもう少し事務局のみなさんが仕事がしやすいような環境づくりといえますか、そういったものに配慮するべきではないかというふうに、まあ、自分の反省も含めて思ったところがございます。以上です。

(田口副会長)

ありがとうございます。今おっしゃったようにですね。執行部が一番ご迷惑をお掛けしているんですけど、少し事務局頼りになりすぎてるような所もあるんじゃないかなと反省をしたところがございます。もし他にですね、ご意見ができれば、あるいはこういうことができるよという御知恵を拝借できれば教えていただければと思います。

(古川)

今まで話していただいた事もふまえてなんですけど、関連すると思しますので先にお伝えした方がいいですかね。そこまでふまえたうえで、何を協議するのかというのをお伝えさせていただきたいと思んですけど、まずは今の現状報告をふまえたところで福田事務局長の処遇に関しまして、が1つ、でもう1つが4番14ページでございます、とりあえず3月までの暫定の事務局改定案ということで、一旦3月まで走っていけないかなという感じで思ってます、これがないことには僕らも結局動けなくなってしまうなあというところもございますので、これにつきましてもお審議いただければとおもいます。この2つご協議お願いします。(27:39)

(田口副会長)

はい、えっと、福田事務局長におかれましてはですね、契約はご存じの通り3月31日、1年契約になっております。契約は契約として、生かしながら引継ぎ等もあると思しますので、そのあたりを加味してですね、進めさせていただくのがいいのか、あるいは、もっと強硬にご本人にもご相談を申し上げたり、あるいは、理事さんの意見を聞いてですね、対応を取るべきなのか、というところがございますが、このあたり契約の関係でいかがでしょうか？

-間-

(松本理事)

今話を聞いてですね、非常に残念で遺憾極まりない、という思いでいっぱいです。というのがですね、昨年の暮れまであれだけチームワークがよかった観光協会の理事と事務局いろいろとその間に摩擦はありましたですけれどもね、ここいっぺんに一番要の総務と会計あたりの人達がいっぺんに辞めるって事はですね、どうして起きたのか？思うんですよね。ただただ、それだけが残念でございます。今の執行部も一生懸命努力はされた結果だとは思いますが、いっぺんにここで3人も辞めるということがあってよかったのかな、その中でも

1人でも残ってくれと言うてですね、一生懸命ですね、袖でも切れるように引っ張ってでも残しておいて、それから徐々にこう改革していくというのも1つの方法ではなかったかな、ただ、結果論になりますけども、残念でございませぬ。はい。まあいっぺん、私、この宝島観光協会はですね、発足当初、本渡観光協会から宝島観光協会になってからですね、私全て理事でありますけれども今までこういう事は一回もございませぬでした。悪い中にもお互いが声かけあって盛り上げていこう、そういう名目でこの宝島観光協会というのができたんですよ。ね、ただただ、残念です。

(田口副会長)

はい、ありがとうございます。他にご意見ある方いらっしゃいませんか。

-間-

(田中理事)

私も私的なものですが、まあ今まで長年、城下さんと大塚さんは頑張っておられて非常に残念は残念なんです。ただ引継ぎがなかなかまいこと、この文書を見ますとですね、いってなかったということで、できればですね、本人たちもいつ頃から辞めようと思ったのか分かりませんが、そういう事態にたまたま、今度天草町から、藤本会長がなりましたけれども、会長さん自体は就任されてからまだ1年もありませんが、対応というか、みなさんと関わってきたのか、そこら辺を若干聞かせていただければと思いますけど。

(藤本会長)

はい、本当、この件に関してはですね、みなさんにご心配とご迷惑をかけ、本当に申し訳ございません。観光協会トップとしてお詫び申し上げます。私も就任当初からですね、なかなか常勤という立場ではございませぬので、なかなか事務所に行く機会もございませぬでしたので、局長がどういう人なのか、職員がそれぞれ何をしているのか、本当正直、把握してございませぬでした。

で、この状況の中でいきなり12月にお三方、辞表を出されたという事で、慌てて田口副会長からもお話がありました通り緊急に何度も正副会長会議を開きまして、何度も引き止めは行いましたけれども、本人たちの意思は固くてこういう事態を招いたことを本当深くお詫び申し上げます。大塚さん、城下さんに関しては、河丁さんの前にある観光協会があそこにあった時代からいらっしゃるベテランですので、その彼女達が多大に功績を残したことは、本当、こういった形で去るというのは、本当もったいないんですけれども。そこを関して言えばまだまだちょっと分からない部分もありますので、また調査を引き続き行って、今後再発防止に務めていきたいと思っております。

(田口副会長)

それでは、あの、局長の業務を今一時的にストップをさせていただいてる状況です。

あと契約期間とどういった方向で進めさせて頂ければ、ご意見あられる方は？

(濱崎宗治理事)

今黙って聞いてみますと、結局弁明会になって、今私が感じるところを言いますよ。局長を一方的に悪いみたいな話になってますけども、私もどういう状況なのかわかりません。

局長にも弁明をさせてもいいんじゃないですか。どうなのか。一方的にはいかんのですよ。黙って聞いてたら一方的にみんな言ってるからですね。局長弁明させていいんじゃないですか。

(田口副会長)

はい、わかりました。

(田口副会長)

報告事項の時に事業報告の中で少しお話をさせていただこうと思っているんですけども、今がよろしいですか？

(濱崎宗治理事)

いや、あのですね、今の流れで行くと結局、今局長は契約は3月31日までですよ。局長の業務を停止している状態じゃないですか。そこを一方的にしていかにということですよ。疑問なところです。そこは。そこ、ちゃんと。結局局長と言うのは業務停止したままにしておいて組織として、今は態勢を作り直しているという話ではないですか。今の話は。これでいいのかなと思ってですね、一応、反対とまでは言わないんですよ。一方的に話よるもんだけんが、内容がわからないじゃないですか、私たちは。

城下さんがどういった経緯で辞められたのか。私達から言わせると、一般的にですよ、立場のある人間でやってきました、宝島観光協会の前の宝島観光連盟から大塚さんも城下さんも前の岩見局長もおったんですよ。その観光の中でずっとしてきた人であればですよ、3月31日の任期をもって退職していただきたかったと、そして、その意思があるのであれば12月位に退職願を出されて、そして次の人が事務を引き継いで、通常会社はそうするんだけど、まあ、一か月前に法的には、確かにいいとは思いますが、道義的な問題として果たして協会が困るのにいいのかなという思いはあります。黙って聞いとくと、局員とはいいません。局長も弁明をした中で、組織を作っていくにあたり一方的にやってもらうとはいかんと思います。

(37 : 37)

(山下理事)

議事進行の中でですね、(5) 報告事業、ここの中に令和5年度事業報告というのがあります。ここ、今、議事が混乱したんですけど、こちらのほうで今行われている事業の一覧があります。これがかなりの所が止まっております。今、事務局長が事務局長を続けて行って印鑑をそのまま事務局長の印鑑を使うとなると、この止まった事業をまず動かさなきゃいけないんですが、それが止まったままになると、これ業務報告、項目が飛んでしまうのでどうするかは司会の田口さんにお任せしますが、なのでここを確認するときに、必ず事務局長のお話を聞くこと。聞く必要があるんで、そこでいろいろお話をいただこうかなと思っていた所ではあります。

(山崎)

今言われてるのが、22 ページと 23 ページのことを言われています。

(古川)

先にこれに関して説明させて頂いた方がよろしいでしょうか。順番前後しますが、22～23 ページについては先にご説明をいたします。まず 22 ページですけれども、大塚、城下、中村の退職に伴いまして、現在残った職員は理事会開催や、請求書の支払い、天草市担当の委託契約の仕事を最優先にして取り組んでおります。やはり 3 名がこれまで行っていた仕事というのは全くみえない部分が多いため過去の資料とかを一個、一個探しながら、1 ページ、1 ページ紐解きながら進めているために非常に時間がかかっているというような状況です。

普通に作業するよりも倍、3 倍という形で時間を要している形になっています。3 月には決算ということにもなりますけれども、現在の支出などに関してもまだわからない部分が多いため、今回は停滞している業務と不明な支出、まだ判明していない支出の事業なんかを一覧としてピックアップして報告をしております。

次のページに関しまして、23 ページの方ですね、こちらに関しましては事務局長が当初からお 1 人でおそらくされている、途中から一部作業をされている形にはなっているのですが、我々が概要を、そもそも何なのかというのをきちんと把握ができていないものになっております。

これに関しまして、この赤字の部分にもありますが、請求書が届いていたりにもかかわらず、事業を起こす前に必要な書類の不備があったり、書類が提出されてなかったり、発見できていない、そういったことによって支払いもストップしている、非常に危うい状況であるということになります。こちら 23 ページに関しては事務局長が抱えていて、こちらにまだ降りてきていない、もしくはこの資料の 6 ページから 12 ページにあります、メールですね、対応願います、の一言だけで、中身が何もわからない状況で丸投げされているような状況。何をどう動かしていいのかわからないけれども、おそらく対応願いますということなので、こちらで対応すべき案件なのかと把握しているものになります。以上です。

(田口副会長)

はい。

局長は先程濱崎理事からも提案がありました件も含めてですね、少しお話をいただければと思います。

(福田事務局長)

福田でございます。え～と、これまでは 3 名の退職者を出し、事務局内の事業作業等々の混乱をきたしご迷惑ご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。私としてもですね、私も今日の資料というのは初めて見た内容で、ちょっと内容を全て把握している訳ではないので、個別具体的なお話しすることはちょっと、今お答えすることはできないですけど、私が就任した 2 年前の頃からですね、そういう意味では少し、大塚、城下あたりとのコミュニケーション不足を感じてはありました。ただ、私としてはですね、元々私を採用していただいた経緯を考えて、あまり事務処理というのは、申し訳ないのですが、得意な方ではありませんでした。ただ、新たな方

向性があるとか、新たな事業についての取り組みというのを、私としては広域の事業等々をやるべきだと考えてやってまいりました。さまざまポルトの管理であるとか、そういったところでトラブルも生じておりました。その中でなんとか改善も求めたし会員さんの管理不足で3年間退会扱いになったりとか、ダブルブッキングで、ポルトの方で業務改善を求めたら、全員でやってるんで、年に2回か3回、こういう事が起こるんですよ、と言われたこともあります。まあ、このへんを私としては改善を求めたつもりだったんですが、そのあたりから多分あまり気持ちよく思われなかったのかなというところはあります。さまざま私としては数字の間違いとか最初のうちは口酸っぱく言ったんですけど、段々とちょっと、雰囲気が悪くなってきたので、あまり細かいところは言わずにいて、なんとか次のステップを考えようかと思ってまいりましたが、私としても力不足でそこまで至ることができませんでした。個別具体的なことは控えますけれども、私としては然るべき時期になるべく早く身を引かせて頂いて、次の方達のご活躍にお任せをするように、私としては出来る限りのことをしたいと思っております。これで以上です。

(田口副会長)

はい。ありがとうございました。

濱崎理事・・・よろしいですかね？今の。

(濱崎理事)

結局、3名の退職について、局長と一緒に仕事をしたくないから辞めたわけですか？

それになってすよね。今の書いてある、退職理由はそがんなったとったすばい。

(平下理事)

それ以外もあるでしょうね。

(宮下理事)

個人のあれやけん、色々あるんじゃないかですか。

(下田理事)

まあ、耐えれんけん辞めたんでしょうけどね。

(田口副会長)

退職のあれは一身上の都合です、お書きになっておまして、監督署の方からもですね、いろいろと相談に行きまして、何回か、やっぱり意思が固いということでございました。監督署の方からも少しご相談はしていただいているような状況でした。

(平下理事)

そもそも、ずっと務めて来れた人が、やっぱこの点が、それなりに職務がきついんじゃないと思うとすよね。

(下田理事)

やっぱ、よっぽどの理由があるとじゃなかですか。なんで辞めたかとか。まあ、色々聞いとる人もおっとじゃなかですか。

(山下理事)

すみません、ちょっと一旦、事業の話をさせて頂きたいのですけれども。個別のあれについてはお話ししないということでしたが、え～この23ページ、決裁日の記入のないものがもう実施されてたりとか、事業報告書がないものがあったりとか、まあ、弁護士さんの契約で正式な書面がないということはないと思うんですけれども、まあ、そういうことだったり、3番目にある天草婚活イルミネーションナイト、これ理事会にも諮られていない行事だったりするの、計画書もなく、事業報告書もないと、支払いもよくわからないものが発生しているという形になっています。これ、事業をどうやって進めていたのかが非常に不思議なんですけども、これ事務局長どうなったんですか？これ。

(福田事務局長)

すみません。あの～事業についてのお話は、あの、させて頂きたいと思いますけど、あの婚活ナイトなどについては、その当時、大塚にですね、予算を聞いていて、ここだったら出来るという予算は聞いていました。ただ、この話が発生してからですね、さまざま時間がなくてですね、ちょっと起案書とか事務の作業というのがちょっと後回しになってしまったのは事実でございます。

それぞれ私の方としても、熊本経済エスプレッソにしましても、これも大塚に確認して、この予算ならばできるといったような話は聞きながら、進めておりました。もう一つのエギングの後援について、これはあくまでメールで申請が来たのみの話でございます。JTBの旅スポット、今年度では基本的に動きがほぼほぼなくてですね、昨年度ツアーをやって、今年になってツアーを、あの、昨年度体験ツアーを作って、今年度商品化しようという話にはなっておりましたけれども、それが実際にはまだ動いていないという状況なので基本的に会議だけが行われている状況でございます。VISIT天草プロジェクト、基本的にはプロジェクトの中で様々な案件が動きます。

要は、基本的には会議に参加して、場合によってはコンペの審査員をしたりとか、会議で意見をだすというだけの話でございます。あと、今天草市さんとやっていただいています、ポナン社クルーズ船の件については、これについてはかなり内容が、崎津にクルーズ船が来るということで特別のプログラムを作っておまして、これについては様々、ちょっと1年かけてやってきたもので、なかなかすぎにお伝えすることができないので、私の方で現在引き継ぎ書というものを作成しております。というような感じで、あと事務局長会議というのは、毎年行われているのでここはあくまで参加してその場で意見を述べていくということにすぎません。でも、事業部と総務の監査については、私の方でも申し訳ございませんが、この辺の経緯については役不足で私の方で行える状況ではなかったもので、その辺についてはご相談させていただきたいと思っています。以上です。

(山下理事)

すみません。事業をする時に計画書がないまま走るといふのはあるのか、どうなのか。それから観光協会の書面についてはチーフの印鑑が必ず必要になるかな。チーフマネージャーとか。マネージャーの印鑑が必要になるかと思うんですけど、これは大塚さん、城下さんの印鑑が打ってあるということなんですか。事業執行伺いとか、決裁の記入がないやつとか。

(福田事務局長)

あの、実際に、そのですね、書類においては必ずしも時間が満身に常にあるわけではないので、場合によっては先に走って、書類は後で回るといふのは多々正直言ってあったと思います。

(山下理事)

理事会にかかってないやつを、そうやって走らせたりしてたんですか？

(福田事務局長)

多分あの～理事会にかける案件かどうかという所は、すみません、私の方も把握はしておりますでした。

(山下理事)

新しい行事については理事会にかけてたと思うんですけどねえ、予算が発生するようなものとか、予算変更があるようなものについては。私が聞いている話だと印鑑を押せというように形で迫られたりしていたという話をちょこっと耳に入れております。印鑑必要ですからね、必ずマネージャーの印鑑が。それを止めてたんじゃないかという話を聞き及んでおります。

(福田事務局長)

あの～すみません。ハンコを押せつというような事を言ったことはございません。

(山下理事)

わかりました。了解です。

(田口副会長)

じゃ、少し整理をしまして、え～まず、局長の契約については契約を更新せずに3月31日まで引継ぎをしていただいて終わるということによろしいですかね。考え方としては。いかがですか。それとも、もっと早くご本人と相談して決定をする。

(福田事務局長)

すみません。えっと～昨日ちょっと会長ともお話をさせていただいたんですが、こういう事態なんで、一日でも早い方がいいかなと思っています。私としては引継ぎはまだちょっとあるし、その辺は必ず退職後にご連絡いただいた場合には対応することを固くお約束しますので、2月末をもって退職させて頂きたいというふうに、昨日会長と相談させていただきました。

(田口副会長)

どうですかね。契約は一年あります。で、引継ぎも今からやってもらわないといかんということもあります。今までのお二人は、退職日以降はですね、なかなかこちらからご相談申し上げるのは非常に困難な状態ですね。

執行部の方に任せて頂けますか？それとも。

(濱崎宗治理事)

本人の意思が固いだけ、しょうがないんじゃないですか。3月を2月って言うんだから。会長と話したわけだから。そこを3月いっぱいまでおってくれて言ってもいいんですけどもね。個人の意思が2月いっぱいだと会長と話をしたのであれば、それでしょうがないのかなと思います。あと、田口さんが言うように、やった後もやり方を整理をしていくということでもいいと思うんですよ。

(藤本会長)

実は昨日福田氏よりお話がありました通り、2月いっぱいだとありましたけれども、私個人としては一旦預らせてくれということで、任期は3月末ありますから、是非3月いっぱいまで残っていただいてですね、ご本人の頭の中でしかわからん部分もございますので、特にポナン社なんか重要な案件ですので、そこは彼一人で対応してきた案件でございますから、そこは年度末、3月任期いっぱいまでは残って頂けないかなと、私個人的には思っておりますけれども。

(田口副会長)

今、会長が申し上げた形で、スケジュールをとっていきますけど、よろしいですか。

(平下理事)

あの、職員さん達は、はたして、3月いっぱいまで来てもこの状況で、今の状態が続くわけじゃないですか。たぶんもう、一緒にやろうという気持ちはないですよ。正直きつい状態が一か月伸びるだけだと思います。なので、ご本人もおっしゃっているんで2月の方がスッキリするんじゃないかと思います。私は、無理に明日辞めてくださいとか、もうご本人も納得の上なら職員さん達もそっちの方が動きやすいんじゃないかと思います。どうですかね、職員さん達。

(古川)

私の方から、現状をお伝えいたします。まず、現状ですね。えと、年末から年始にかけて、執行部の方々と色々話をさせていただきながら、暫定的に今、事務局長は事務所ではなく別部屋ですと勤務しているような状況になっております。これは私達が要望したものであって、実際近くにいると作業が進まなかったからです。今、離れたことによりようやく少しずつ動き出して支払いだったり、こういう理事会の資料だったり作成できるようになってきている状況で、事務所から遠ざけての勤務というのが1つ希望としてございます。ただし、今の状態ですと、ポルトの3階に彼がずっといまして、その費用がずっとかかる。というのが1つ懸念点としてありまして。あと、牛深の方ですね、これまで山崎の方が曜日ごとに行ったり来たりしていたんですけど、と

でも手が回らないということで、今ずっと本部の方に関わっていただいて、そうすると牛深に穴が空くので、そこを今ハイヤ保存会の方々にお願いしている、そこもまた無駄な費用が発生し続ける状況です。その支出を我々としては出来るだけ抑えていきたい。あと、そうですね、もうすでにうちの事務所の中にいらっしやらない状況でございますので、できれば我々との関りをなるべく絶っていただきたい、というのが1つ好ましい状況ではあるものの、これの23ページのような状況にあって我々が一切把握できていない事が多すぎますので、そこに関してはどのように扱うべきかな、というふうに思っております。これから間に合うものとか、であれば、なんとかできるものもあるのかと思いますけど、伺いがひっくり返ったものとか、正直中身もわからないまま、支払、請求書とか案件とか、こういう状況であれば僕らも責任がでるのかな、こういった対応が一番好ましいのかなと、疑問が多々あるんですけれども。彼自身は、さっきのメールのように、対応願います、とポンと投げってくる状況で、何も知らないのに丸投げされても困るんですよ。なので、きちんとした引継ぎ、分かるような、僕らがちゃんと理解できるような引継ぎというのを求めます。以上です。

(野下)

すみません。引継ぎの場合は書面で引継ぎを、具体的をお願いしたいと思っております。

(山崎)

そうですね。もうなんか、こういう状況になって、まあ3階に局長がいて1階で私達が仕事をしているんですけれども、当初、昨日、囑託の中田も体調を崩して、救急車で2回運ばれるような状況になったりとか、もうみんな結構体力的にも、精神的にもまいって、病院に一日、一週間に一回通いながら、業務をこなしてっていうような、そこまですってしまったので、ぶっちゃけ3階と1階に分かれています。福田局長から丸投げされるような状況があったもので、こういう分離して仕事をしている状態に陥っているのが実情であります。なので、シルバーさんを雇って土日、結局観光協会は市と違って土日も出続けなければいけないので、そこは二人体制で体制をとってやっていたんですけど、そこも結局ずっと一週間出続けなければならないので、その土日の休みの部分もシルバーさんをお願いして1月6日からシルバーさんに来て、お手伝いしていただいている状況で。シルバーさんへの支払いとか、私が牛深の旅行業の免許が私だけがあるので、こちらにいないといけないということで、牛深の方も成田さんという臨時職員がいますけれども、その臨時職員も休ませないといけないので、10日分のお休みを牛深ハイヤ保存会のみなさんをお願いして出勤をしていただいている状況です。なので、できれば、気持ちとしては、時期を早く体制を整えていただきたいので、局長が2月末をもってということであれば、もう早めに対応とっていただけた方が私達としてはありがたいなあと思っています。以上です。

(平下理事)

そうですね。

(藤本会長)

そういう意見ありましたので、承知しました。はい。もし、執行部であの～会議にかけまして、

そこはしっかり対応したいと思いますので。平下理事よろしいでしょうか？

(平下理事)

はい。

(藤本会長)

あと、松崎理事、ポナン社の件に関しては、最初はどこが窓口だったんでしょうか？正式な。

(松崎理事)

窓口？ ポナン社の受入れにつきましてはですね、熊本県、それから天草市が受け入れを・・

(藤本会長)

市の観光課と、宝島、どっちが正式な窓口というか？

(松崎理事)

あ、それはそれぞれです。ビジネスとしての取引はポナン社と崎津の分につきましては宝島観光協会との間で福田局長が中心になって進めていただいて、今大詰めの状況ではございます。ただですね、あの～福田事務局長が2月末、3月末どちらでも、実際来るときには、年度明けて4月、5月になるとですよ。もう4月、5月の時にいずれにしても、福田事務局長がいらっしやらないということであればですね、早めに後任の方を決めていただいて、早めにその方にこの事業に加わっていただきたいという気持ちはもっております。ただ今の状況をお聞きしまして、大変な時期だと思いますので、私ども職員もですね、事業の中身についてはですね中に入ってしっかりと内容を把握しておりますので、宝島観光協会さんとポナン社とのビジネスの部分についてもですね、私達の方も入ってサポートさせていただきたいと思います。具体的なお金の事は私達は入ることはできませんけれども、内容については把握しておりますので、ポナン社長、伊知地社長との方ともですね、私達もやり取りしておりますですね、どうしてもこの事業をですね、あの～天草市のインバウンド対策としても大変重要な事業という風に捉えております。これは絶対成功させたいと思っておりますので、事務局のみなさんも大変でしょうけども私達も一緒に頑張りますんで、よろしく。

(藤本会長)

はい、ありがとうございます。

(古川)

すいません、事務局として1つ明確にしておきたいことがありまして、彼をえ～と～人事案件、事務局長の人事案件に関しては理事会を通すということになっております。で、現在決裁権はまだ有してる状態、暫定処置で動いてるんですけども、要はその執行伺いだったり、いろんな書類に印鑑を、最終決裁権みたいな印鑑が必要なんですね、で、それが中々回らずにたまってしまうような状況になっていて、業務が滞っている、なのでそこも決裁権利うか、事務局長としての

権利は一旦停止という形で、わたしが例えば代理印をするならば、それで報告という状況、少しでも早く作業を動かせるような状況を整えたいです。

(田口副会長)

はい、整理しますと、まずあの～事務局長については皆さんの承認が要りますので、2月末と、ただ～引継ぎ等の状態を見てそのあたり少し判断をした方がいいんじゃないかなという風に思っている事もあるので、一応2月末ということで今日はよろしいですかね？ はい、それが確定しますとですね今一時的に業務を停止しておりますので、皆さんの承認を得てですね、え～14ページに新たな案をですねこういう形でですね 残った者でやってみましょうということで、今あの～引継ぎを開始したとこでございますんで、できることできないことまた、理事の皆さんにご迷惑をおかけすること多々あると思うんですけどもこういう体制で承認をえてスタートをさせていきたいと思っている所でございますが、この件についてもご了承いただけますか？

(平下理事)

はい

(宮下理事)

はい

(山下理事)

すると決裁権者は古川さんがいったん持つということでよろしいですか？

(田口副会長)

よろしいですか？

(山下理事)

3月末まで？

(田口副会長)

3月末までですね

(平下理事)

認めます。

(田口副会長)

よろしいですか？

(下田理事)

はい (1:07:30)

(古川)

それでは、今の結果では執行部預かりということになるんですかね？支出が続くのでなるべく早めに結果を出したいと思うんですよね、その支出を抑えたいのと、あとはそうですね 事業をとにかく回せるような体制を整えたいと思うので、その部分についてはよろしく願いいたします。(1:08:03)

(松崎理事)

古川さん、あの～今の新しい体制についてですねなんですけど、これあの～3月末というか区切る必要があるんでしょうか？

(藤本会長)

ありますね。

(松崎理事)

あのですね、4月からも、また別の体制になるというそれもまた中々、理事会を開いたりとかほんと大変だと思うんで、当分の間、あの事務局次長古川さんと言うことで継続というわけにはいかんですか？

(田口副会長)

それはあの～前提なんですけども、今のご承認いただいたと言うことで、今度事務局長の公募についてもですね、進めてまいりたいと、言う風に思っている所なんです。ただその公募するのか、あるいは古川君がそのまま事務局長になられるのかは、また皆さんとご相談ということになるのかと、思っているんですけど、だから、一旦は3月31日が期間ですので (1:09:03)

(松崎理事)

ちょっと私も心配したのはですね 3月31日とここで区切ってしますと、3月中にもう一回理事会ひらいて、たとえば継続するなら継続すると、そういうことを開くということですかね？

(田口副会長)

3月はですね、予定どおり予算が確定したときにどうしても最終承認を実施する予定でありますので、その時にあの～ご承認を頂いた方がいいのかという風にこっちは、執行部としては思っていたところです。だからあの～、先々のことについてはあの～異論はないんですけど、期限としては、3月31日の年度でした方がいいのかなと、思っている所です。

(松崎理事)

はい、承知しました。(1:10:10)

(山本理事)

理事会の全体スケジュールがでてないので、私たちが理事会がいつあるかわからないんですよね。だからスケジュールを出していただきたい。

(田口副会長)

はい、じゃ、そういう形ですね、進めさせていただきます。

(古川)

えと、すみません、福田事務局長についてなんですけれども、先程もちらっと申し上げたまま、余計な、本来発生する必要のない予算が今どんどん使われている状況でして、彼の居る場所と言うか勤務地で、なるべく費用がかからないような状況をお願いしたいなという風には思っているんですけれども、仮に牛深観光案内所に入ってもらふことによって、3階の費用、今使われている費用もなくなりますし、牛深観光案内所の、今1名、緊急で入ってもらっているハイヤ保存会の方の費用もなくなるのかなあという風に思うんですよね。その支出が減るだけでも非常にありがたいと思うんですけれども。これをこの場で決定は難しいでしょうか？

(田口副会長)

引継ぎも兼ねてですね、ご本人が、まあ、どれくらいかかるか、私もすみません、把握しとらんとですけど。3階が。たとえば牛深におんなはるということで、これがしたかという時に、連絡がとれませんということは避けた方が、今の事務局の話を知るとですね、逆にそういう風に思うもんですから、どうかな。

(平下理事)

先程おっしゃってた通り、文書で欲しいとおっしゃってたけん、近くにおる必要ないんじゃないですかね？もう、メール等々でそっちの方がはかどりますよね、きつと？やっぱり、きつと・・

(野下)

そうですね。できれば文書で。内容を見て、ちょっと分からないところを質問させてもらったりとか、そういうのができればと思っています。あの、付け加えなんですけど、大塚さんが旅行業の取扱管理者だったんですけど、退職されまして山崎の方が取扱管理者になるよう今申請しております。で、申請した場合なんですけど、本部に常勤するっていう決まりがありますんで、今牛深の方には山崎は出勤できない状態になっておりますんで。はい、よろしく申し上げます。

(田口副会長)

はい。じゃ、その点についても、ちょっと執行部で検討しまして、指示を出すという事でよろしいでしょうか？今、理事さんの意見を伺いましたので。はい。

(古川)

すみません。その、本来は事務局長の人事案件は理事会を通すということですけども、執行部に一任されるということですか？

(田口副会長)

いや、いや。今、事務局長でいらっしゃるじゃないですか。で、今日ご承認いただいたんで、今までは臨時的、一時的に停止したんですけれども、全面的に停止しまして、理事の皆さんから2月末の退職ということですよ。それは、それで決定をしたと。で、問題は引継ぎ等々の問題がございますので、今本人が3階にいらっしゃる、で、それは出来るだけスムーズにいくようにというなことで思っておったんですけれども、執行部としましては。今の意見だと、引き継ぎ書はきちんと作って文書でくださいとのことですんで、それを含めて自宅待機なのか、牛深に行ってもらえるのか、その辺は執行部に任せていただけませんかということで、今承認を得たいと。で、この～14ページの表に従って自分はやっていきましょうと。

(宮下理事)

事務局さんはそれよか、いつぐらいまでっていうとば、聞きよらすと思うんですけど。会議ばしてから、それが2月末とかやったら結局同じことやかってですか？

(田口副会長)

引継ぎが、っていう意味ですか？

(宮下理事)

その、引継ぎはもちろん業務内容・・・してしまわないといけないですけど。いつ、牛深に事務局長は移りますか、っていうのを。そうしないと仕事はかどらないって事務局の人達が言うわけなんですよ。ぶっちゃけ、言えば。だからそれを早くしてほしいっていうのが、要望で。それができれば今決めてほしいんですっていうのを、たぶん言われてるんと思うんですけど。

(田口副会長)

はいはい。それを執行部に一任してもらえませんかということをお願いしています。

(宮下理事)

それを、いつまでにできますかっていうのをたぶん聞かれると思いますよ。

(田口副会長)

それをこれが終わってから私達がやりますんで。ご本人にも確認をしたいところもございますので。ですね。

(宮下理事)

だそうです。はい。

(田口副会長)

あの～ご本人さんの、ですね、付け加えますと意見もよく聞きなさいということで言われておりますんで、はい。

(古川)

はい、え〜と、すみません。それでは協議事項4までは終了したということで、よろしいでしょうか。

(田口副会長)

5番についてもよろしいですかね？今一緒にやったということで。

(田口副会長)

5番少し説明をさして

(古川) (1:16.21~)

はい、では報告事項ということで5番項ですね、令和5年度事業報告についてお伝えいたします。資料の方は15ページからになります。事業計画報告なんですけども、詳しくは、また後ほどお読みいただければと思うんですけども、項目だけ説明させていただきます。天草伊勢えび祭り、こちらが開催されまして、無事終了したしております。天草井井フェアーにつきましても11月30日に終了にいたしました。で、部会の活動ですね、も行っております、こちらは冊子がおそらく部長さんとかお持ちかなと思うんですけど、冊子が出来上がっております、現在WEBページの作成を行っている最中のような感じです。すみません。ちょっとこれも今、部会関わっていなかったのだから今さぐりさぐり確認しながら進めてはおりますが、こちらの部会で作った作成したパンフレットについては20ページから21ページをご覧ください。このような冊子を作成いたしております。各地域の誘客事業として、美化の清掃等を行っております。関係機関の連携事業ということで、本渡ハイヤ祭り、港街、牛深の花火大会の協賛などをしております。その関係については割愛させていただきます。え〜特別会計ですね、宿泊客数調査ということで、現状このように数字が上がっておりますが、やはり回答率が非常に低いものとなっております。こちらの平均回答率は80%を上まらないと、天草市さんとの契約不履行となると言うことで、こちらに関して非常に憂いているというか、どこまでできるかかけるかどうかというところで、今ちょっと悩んでいるところではございます。続きまして、情報媒体の作成というところで、4月からのページビュー数を挙げております。ただ、全体と言うか基本思いますが、6月あたりからアクセス数が伸び悩むような数字に見えておりますが、こちらに関してはグーグルの検索方法の変更に伴って数字が、絶対数が低くなるような計測方法に変更になっております。なので、現状数字の見ただけで言うと非常少ないですが、今までの結果方法と違うということだけご承知おきいただければという風に思います。え〜飛ばしまして、次は牛深担当に、3番ですね、牛深担当もいるということで、引き続きお願いいたしております。コメ印ありますが、本部職員も3人退職したということで、先ほどから話はちらちら出ていると思うんですけどね、ハイヤ保存会さんをお願いしていると、この分の費用が発生していると、4番、崎津集落観光美化清掃活動と言うことで、実施継続中であります。5番、旅行商品販売事業と、御所浦ですね、体験のツアーであったり、先日の1月21.22日で台湾の方がいらっやして、そこの対応させていただいております。え〜6番ですね、冬の天草誘客推進事業、事務局業務受託事業こちらに関してイルミネーションですね、天草ロマンチックファンタジーとか、こちらも1月14日に無事終了いたしました。こちらに関しましてはまだまだ、終了後の集計作業は残っているんですけど、私が担当しているんですけど、今の

所一旦すべての業務をストップしてるという状況にあります。7番、ポルトの受託事業ですね、これは先程に加えて、山崎から話がありました通り、土曜、日曜、祝日も対応しまして、それまで職員2名ずつ出ていたところを、一気に3名いなくなったもので、一人で対応していかないといけないという状況になっております。それを踏まえまして、シルバーさん、いつも夜間はシルバーさん6時から10時まで入っていただいているんですけど、それを土日祝日だけ昼間にも入っていただく形になっておりまして、そちらも緊急というか、ちょっと予想していなかった費用が発生しています。続いて事業委員会、合同正副部会長会議についての事項です。第2回事業委員会を9月28日に開いております。令和6年度事業予定計画予算案ということで、上げさせていただいております。中身についてはご覧ください。続きまして、合同宿泊及び飲食部会ということで、10月5日木曜日に開催しております。並びに、合同部会において、8月17日にWEBページ掲載について話をしております。え～9月21日にもこの継続。資料、パンフ、WEBについても話し合いを行っております。え～一応続きとして先程の22、23という形として、ここまでが事業報告とさせていただければと思います。よろしく願いいたします。

(田口副会長)

はい、今の事業報告についてよろしいですか？

(会場内の各理事)

はい。

(田口副会長)

はい、じゃ、報告事項のその他何かありますか？

(古川)

はい、まず、一番最後のページ、24ページにですね、新規会員加入または退会についてのご報告が毎回やっておりますのでご報告申し上げます。退会1件ございます。KUROSHIOさん、飲食業という事で退会の届をうちの方で受けております。こちらに関しては報告のみとなります。以上です。

(野下)

あ、すみません。あの～ですね。今年度の会員さんの会費が未納の地域がございます。そちらをリストにしまして、各地域の事務局さんと支部長さんにご連絡いたしますので、ご協力の方よろしく願います。以上です。

(田口副会長)

はい、じゃ、その他ないですね。じゃ。

(会場内の各理事)

はい。

(松崎理事)

すみません。あの～先程のですね、宿泊客数調査のことがあったと思います。

これが1番ですね、我々が過去の施策の中で一番重要なデータとなりますので、ご協力をいただきたいと、それぞれの支部の方でも早めに請求いただくようにお声かけしていただけると大変ありがたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(田口副会長)

はい、あの、報告お願いしますね。はい。

(泉顧問)

え～みなさん、こんにちは。私は昨年、藤本会長の方から当協会の顧問ということで相談をうけまして、なんとか私も天草観光のために一緒に頑張っていこうということで引き受けた次第であります。で、実は昨年11月、福岡事務所、熊本県の福岡事務所にも藤本会長他、宣伝隊で行って参りました。ほんとにですね、地域の新聞社、マスコミ等にも宣伝をしたわけでございます。そういう中で、なかなかですね、天草の顔が見れない所もありました。しかしその後、県庁にも行って来ました。県庁の部会長から、天草市は市役所、観光協会も含めて、顔が見えませんか、今まで何をしとったんですか、そういうことまで、県庁の職員から言われました。私も県庁の職員から言われたので、私も天草市だったので、少しムカッときましたけれども、その場は、まあ、よろしく申し上げますということで、帰ってきたわけでございます。そして明けて、1月9日くらいだったと思います。職員さんが3名も辞められる、これは前代未聞だなと、そして福田局長、今話をしました。他の職員さんにも、古川さんを中心に話をさせていただきました。なぜ今までこうして不祥事というか、不信があったのに、なぜ黙っとったと？それいつからなんですか？藤本会長の前からずっと最初からあるんですよ。そういう話を聞きました。なぜ、相談せんか、なぜ、当時の会長含めて知らなかったのかな？私も不思議に思いました。やはり職場は明るくて、この観光は特に笑顔、明るさを持っていないといけないと、私はつくづく思っております。先程、松崎理事殿から市の方もなんとか協力しますからというお話を伺いました。なんとか市と、この観光協会、一体となってこの天草振興のために頑張ってもらいたいと思っております。松崎さん、よろしく願いをいたしたいと思っております。まあ～私が言う、理事ではありませんけれども、やはり福田局長も悪い、そして以前永田章一会長の時に言われたと聞いておりますけれども、岩見君、局長さん当時、城下、これは何とか辞めさせんばいかんというな話を以前聞いたことがあります、そういうことで、やはり職場はお互い意思疎通を図ってコミュニケーションを図って、そして、一つの目的に向かってやってもらいたい、今後古川君を中心に結束してみんなでこの観光盛り上げていきましょう。どうぞよろしく願い申し上げます。

(下田理事)

すみません。それを受けてちょっと発言させてください。

(宮下理事)

その、城下さんを辞めさせないかんで誰が言ったんですか？永田さんが言ったんですか、なんで？

（泉顧問）

そりゃ、仕事せんけんでしょ。

（宮下理事）

仕事内容がどがんかわかっとですか？

（泉顧問）

人前で聞いた。

（宮下理事）

人前で聞いたとば言うとはおかしかでしょ。みんなの・・・内容ばわかっとらん・・・

（山下副会長）

あのですね、ちょっと、受け取っていいですか？あの～今回こういうことが起こって、職員さんと話す機会を、私も、私と職員さんという形でありました。で、なぜ相談してくれなかったんだという話も私もしました。そしたら、まあ、この人に話していいものかどうかわからなかったと、つまり信頼されていなかったわけで、我々が、我々がという言い方はあれですね、私が。非常に情けないなと思いました。あの～話せば、裏から話が他の所に漏れるみたいな感じで思われていたようです。あの、非常に情けなく思いました。あの～、事務局の環境も私本渡にいながらそんなに悪くなっているとは思わなかったですし、オフィスの中にも入ったこともなかったの、ちょっと入れないような感じというか、あそこにバリケードがあつてみたい感じだったりしたので、あの～入ったこともなかったのですが、それがダメだったなあ～という風に思っています。どんどん話していかなければいけなかったなあ、疑われるような感じで、そういう目で見られていたんだと、私は理事会でも、率直にいろんな話をする方だと思ってるんですけども、それでもそういう風な疑心暗鬼を抱かせていたんだなあ～というのが、非常に私、情けないな～という風に思いました。ですので、まあ、これは私の話になりますけれども、キチンと改善できるところは改善していかないといけない。話が漏れたからといって、何かまずいことになるようなことがあるのかどうか、ちょっとわからないですけども、そういう風に思われていたそうです。みなさんがどう思われているか分からないですけども、なのでちょっとそこらへんは環境を変えていく上でも必ず、あの、また新しい壁もできると思うので、そうならないようにしていきたいという風に思っております。あの～、本当にショックでした。結構、事務局員からそう言われた時にはですね。はい。以上です。

（泉顧問）

ただいま、山下副会長から話がありました、みなさんが一致協力してですね、今後進めて頂きたいと思っております。私から言わせるとですね、理事のみなさまは一つのこの経営者なんですよ、しっかりして今後頑張ってもらいたい。以上です。

(宮下理事)

はい。

(田口副会長)

はい。

(江崎理事)

え～すみません。積もっているところで、ちょっと、あの～懸念される事項が私の耳に入っている部分がありますので、その辺をちょっとお伺いしたいと思います。え～濱崎宗治理事。

(濱崎理事)

はい。

(江崎理事)

あの～事務局の職員に対して、事務局以下、事務局方はだめとか、そういうような発言でされたことはありますか？

(濱崎理事)

あまり記憶にないんだけど。

(平下理事)

パワハラ疑惑があるということですね。

(下田理事)

なんか、そっちの方で辞めたって、俺たちは聞いとるばってんですがね。パワハラとか、そっちの方で。

(濱崎理事)

パワハラで、パワハラは言ったことはないと思っって・・・

(下田理事)

本人が、ねえ、パワハラって受けたら、パワハラになるしですね。今の時代は。

(濱崎理事)

だけん、監督署に言えばいいじゃないですか。本当パワハラであればですよ。

(江崎理事)

ありがとうございます。ちょっと記憶にないということで、よかですかね。

(濱崎理事)

自分としては記憶ないという事ですよ。

(江崎理事)

え～ほかに、あなたたち事務方は全部変えないかんという発言はご記憶ありますか？

(濱崎理事)

変えんばいかん。そういう言い方した記憶はない。ただね、私が言ったのは会長のなんで指示に従わんとですかって言ったことはありますよ。

(江崎理事)

ありがとうございます。え～あの、まあ色々事務局側が、色々ルールを説明する中で、あなたに何の権限があって言ってんのか、こういうのを言われた記憶はございますか？

(濱崎理事)

それはあります。あの～あなたは理事会で決定しているのに、なぜ、あんときはですね、確かあの～会長は、え～正副会長を決めたいと早急に会議をしたいんだということで、私が確か本渡五和の件の話があって、会長にお話しして、え～とですね、その時に城下さんが理事会で決めますと、いやあの時もすでに会長、副会長については会長一任って決めたもね、なんであんた知らんとですかと言うた・・・

(江崎理事)

はい、ありがとうございます。そういう文言を言われたかどうかちょっとお尋ねしました。え～他に。

(濱崎理事)

そういう文言をいうのにね、こういうこと言うたちゅうようなことわからんだろうもん。・・・って言われても。

(江崎理事)

ありがとうございます。え～他に、以前、令和2年ですね。あの～不正疑惑をされた記憶はちゃんと思っていらっしゃいますか？

(濱崎理事)

何の不正疑惑ですか？

(江崎理事)

下田温泉グルメイベント実行委員会、これ不正会計を、虚偽の報告をされたっていう部分は覚え

ていらっしゃいますか？

(濱崎理事)

理事会でもそこをですね、ちゃんと整備してます。あの、どういうことかということ、口座の中で予算を先に支出してしまったちゆうことについて、指摘されたとですよ。．．．．．かもきてますけれども、ちゃんと予算書を、ただ予算案を4月一杯に使用しないといかんと6月に使ったということになってました。

(江崎理事)

ありがとうございます。記憶にないという部分、最後にお尋ねしたいのが、これも10月、令和2年10月22日なんですけど、当時の赤木事務局長に対して、え～、トップ、当時は山本会長ですね。事務方もまったく能力はゼロ、脳が足りん、あんたたちは能力が全くなか、こういう発言は覚えていらっしゃいますか？

(濱崎理事)

ん～あまり、記憶ないんだけど、まあ～あの～今のような言い方、．．．．．にんしたのはあん．．．．．言い方をしたと思うんですけども、あのですね、私も監督署の課長と相談しました。おまえ、バカぞ、クズだと、なんでこれをしないのと注意するのは問題ないということでした。注意するのは、理事として。

(江崎理事)

ありがとうございます。あの、結論からいまして、あまりそういった発言をされた記憶はないということによろしいでしょうか。

(濱崎理事)

記憶は．．

(平下理事)

今の発言としちゃ、しとるけど、別に言ったところで問題はないでしょという事でしょ。おっしゃりたいのは。

(濱崎理事)

そうじゃなくて、私は今も話聞いたね、正式に記憶をしてない。もう先の1週間、10日までの話ならわかるけれども、何年も前のことを言われてもわかりません。

(江崎理事)

ありがとうございます。え～記載しておりますが、まず1番項、ボイスレコーダー残っております。で、特にひどいの、電話、一番最後7番ですね。これ、高圧的な文言、事務局職員に対して。記憶にないということですので、もしよろしければそれを流してもよろしいでしょうか。

(濱崎理事)

どうぞ。

(江崎理事)

ちょっと今から、事務局の古川さんにこれを流していただいて。

ちょっと準備ができれば、流していただければ助かります。

(古川)

はい。

-間-

(濱崎理事)

急いでください。私も4時半には帰るので。

(江崎理事)

わかりました。できるだけ急ぎます。

-間-

(古川)

すみません、音がちょっと小さいのでマイクをあてて、拾わせていただきます。

(ボイスレコーダーの音声)

はい・・・です。

(平下理事)

お、来た

-ここからボイスレコーダーの音声-

(濱崎理事)

結局、誰も観光協会というか、なんかあれは馬鹿な回答ばしたと？

これが来年度・・・

どうということ？予算を。今、市長、市長、市長、今年度、何遍もお願いしますと・・・ばってんみんな、ビックリしたって、もう今日聞いて、はあ～あんた達、ダメねえ、もうちょっと・・・しつかりせんば、能力はゼロ、なんで財源・・・交通関係・・・に使うとか、財源は財源・・・で言わんと市長は言うたとよ、予算余っとる・・・今年度はよかって言ったらしかな。来年度・・・て。誰がそがんこ言うた。観光協会がそがん言うた？

(前赤木事務局長の声)

協会の総意というか、理事の皆さんに意見を伺って何もなかったので、今の現状を含めて、正副のみなさんと協議して出しています。

(濱崎理事)

ほ～そんなことよ～・・・・・・・・そがんとのおるけんが、うちの観光協会は要らなくて言わるとたい。今年の元旦、この勢いを・・・、あとで落ち込まないように、・・・で絶えないようになんさん何でもトライして・・・・・・・・

-ボイスレコーダーの音声終わり-

(江崎理事)

思い出したでしょうか？

(濱崎理事)

これは前の局長の時の、あんた今の話は、城下さんの話とすり替えている

(江崎理事)

まあ、7番項の令和2年のボイスレコーダーです。え～一番の、城下さんに対して、なんか少し、城下さんっていうの覚えてらっしゃったんですね。

-笑い声-

(濱崎理事)

いや、そんなないよ

(江崎理事)

え～、その一覧の所に書いてあります、これも音声データ残ってますので、聞きたい方は聞いてどうぞ。あの、ただ記載している通りです。私も何度も聞かせてもらいました。え、まあ、この点含めてですね、事務局職員に対して濱崎理事、あまりにもこういった電話

(濱崎理事)

電話？

(江崎理事)

し過ぎです。

(濱崎理事)

でも・・・・・・・・・・・・・・・・ちゅうと、だってあんたの話じゃないんだから。

(平下理事)

ですけどね。

(濱崎理事)

あのね。いまの質問は江崎さんだから。

(江崎理事)

執行部の方に動議を上げたいと思います。もう、書面で出しました。え、この件につきまして臨時総会を開催し、濱崎理事、濱崎宗治理事を解任する動議を全組合員に出していただきたいと思っています。そして、決をとりましょう。こういった文言を言われれば、絶対新しい体制になったとしても続かないです。新しい職員が来ても、続かないです。濱崎理事のような発言を、事務局に対して言われるようであれば

(濱崎理事)

ちょっと、待って。

(江崎理事)

ということで

(濱崎理事)

あの～江崎さん、一方的というか聞いてください。あのね、まず今の局長、局長（福田）という
と江崎さんと、前の会長達が選んだですよ。え～、田中さんが一緒ね。・・・もね。選んだでしょ。
で、その時に私は質問しました。あなた、そんな質問はしないでくださいって止めたでしょ。意見
を聞かないで。覚えてますか？

(江崎理事)

私は、ちゃんとした動議を上げてくださと伝えてます。

(濱崎理事)

いや、そういうことじゃなく、でるまっ・・・そういった質問をしないでくださいと、その後に
山本会長の方から延々と定款、規約は勉強しとけと言われたことは、そういう

(江崎理事)

構いません。私に全然批判してもらっても構いません。

(濱崎理事)

批判じゃない、順番ば・・・

(江崎理事)

執行部の方々、今の、この資料を元に、どう思われるか。

(濱崎理事)

江崎さん、まずね、ちょ、ちよつ待って

(江崎理事)

司会の方

(濱崎理事)

あなた、一般、一般とうで、全部。なんていうかな、局長に一般論ちゅうか、一般なんだけど、私が何を言いたいのかというと、今の会長も副会長も、言ったように自分達には漏れるから、いいという感じ、ことだったでしょ？副会長ね。職員が。

(田口副会長)

はい

(濱崎理事)

ね、ということは、逆に今回のことは今の前の前の局長に言ったこと、今度私が、女性達に強く言ったことはありませんよ

(山下副会長)

あの、私が、私のはっきり言ったことに対して言われたんで、あの言いますが、私が下田の会長の副会長に入ったから、私に話すと濱崎さんに漏れるんじゃないかという風に言われました。下田の方に漏れるんじゃないかと、で、話せなかったと言われました。私、いつも濱崎さんに注意する方だと思うんですけど、そういうこと言われました、実際、この資料の②ですか、追加予算の件、理事会にかける必要はなかったと事務局に注意をしてきた。これ正副会長会議で300万位追加出費してくれみたいのが上がってきました。あまりにも金額も大きいし、こういうことは理事会にかけるべきだ、から、理事会に諮ってくださいというのは私が言いました。私が言ったんです。だから、もし理事会にかけるなという風に注意するのであるなら、私に言ってきてください。これで、事務局が詰められたと思うと、非常に心が痛みます。

(濱崎理事)

何の件？

(山下副会長)

いや、ここに書いてあるじゃないですか。②、②に僕のことが書いてあるんですよ。僕が言って、僕が言ったことで、

(濱崎理事)

老眼鏡がもってないけん、よう字が見えんとよ

(山下副会長)

僕が事務局で、事務局にお願いしたというか、まあ、理事会に上げてくれと言ったことについて事務局が詰められているんですよ。これ、結構、僕びっくりしたんですけど、これ僕が言ったんですよ。理事会に上げてくれって。

(濱崎理事)

あなた、名前は知りませんがね、何を言いたいかというと、だいたい私の言い分と、今結局なんて言いますかね、局長の問題と城下3人が辞めた問題。私は3人の女性たちに強く言ったことはないですよ。1回も。

(平下理事)

これはねえ、濱崎さん、女性の方達は無茶苦茶、そんなことはないですよ。言われたという風にしか思っとなんと思えますよ。もう、

(下田理事)

だって、精神的に追い込められたと言わっとですよ

(平下理事)

これで～

(濱崎理事)

ちよい、待て、あんたの

(下田理事)

いや、むしろ、理事がでしょ、・・・したっちゃよかでしょ

(濱崎理事)

平下さんのいっぺんに・・・

(平下理事)

まあ、あの、旅館さん(下田理事)も一緒に、私達なんていうか、その女性の二人からも

(下田理事)

相談を受けたんですよ

(平下理事)

そうそう。

(宮下理事)

今日も実際、この会議の前に実際会ってきたからね。

(濱崎理事)

例えばですよ、

(平下理事)

で、おっしゃるように、じゃあ、あっちの一方的な意見じゃないかというのは、その、色々反論の余地はあるかと思うんですよ、私達はこうこう聞き及んで、恐らく職員さんみんな同じ意

見ですよ。で、濱崎さんがもう介入すればするほど、みなさん、仕事もやりずらくなって
だいたい、なんちゅうか職員さんをどの立場で見とるのか知らんけど、部下でもなんでもないわ
けなんですよ。あの～自分の会社の社員さんでもないわけじゃないですか。

(濱崎理事)

社員じゃないけど、

(平下理事)

下なんですか。使っていい立場なんですか、

(濱崎理事)

理事はね、執行部だから、職員に意見として、言ってはいいと思いますよ。ただね。

(平下理事)

意見は言いましょうよ。

(濱崎理事)

今ね、黙って聞いてるとね、前のテープは、今の誰かな～あの～前に事務局、誰か

(山崎)

赤木さん

(濱崎理事)

赤木君だろ、赤木君の話ではあるけれども、私女性に対して、たぶん山崎さん、山崎さんあたりに強く、あの・・・女性に対して特に・・・

(下田理事)

こがん、目の前で言われたら言い難^にっかと思いますよ。

(濱崎理事)

面と向かって、どうも言いよったもね、さっきは、あなたとね

(下田理事)

ここにおらんごつなって、また濱崎さんが事務所・・・なかつですか。

(濱崎理事)

不満じゃなかつぞ、いや職員、残った従業員、たとえば今男性の古川君かな、古川君と話した事
ないもん。

(古川)

はい、おっしゃる通り私は、はい。

(濱崎理事)

ないよ

(古川)

あの、たぶん上司との話の中なのかなと、私も今聞きながら思ったんですけど

(濱崎理事)

古川君、他の職員、今産休でおる女性（瀬形）かな、女性に対して強く言ったことない、ただ前の局長だから、私は局長に対しては強く言ったことはありますよ。あ、これね、元を正すとね、どうもこれは裏で、問題はね、メンバー大体わかるもん。大体やっとりんだらうというのは分かる。

(江崎理事)

はい。え～結局、辞めた方しか言えないんですよ。辞めた後にしかこういった事が言えない。彼女たち一生懸命やってるけど、濱崎、山本会長も、この、前会長、当時の、この件は知りませんでした。赤木君もずっと黙ってました。

(濱崎理事)

で、なんで言うたと、今になって。

(江崎理事)

辞めなきゃ、言えないんですよ。辞めてからでは遅いんですよ。執行部の方、

(田口副会長)

ちょっと、ちょっとよろしいですか。いま、議論されてる件につきましてはですね、今一方的にこう両方から言われているような状況ですんで、まあ、こういうのがもしあればですね、きっちり来られた方にも、きっちりと弁明を聞いたりとかすべきだろうと思うとですよ。

(山下副会長)

でも、総会を開くときにやれば？

(田口副会長)

いや～、それはちょっと違うんじゃないかなと思うんです。今日の報告事項のその他の事項ですんで、まあ、問題を提起されるのであれば、それは

(江崎理事)

はい。え～まずこの案件について、しっかり理事の皆さんでとりあげるか、総会案件として審議

をとるかって言う前に、事前にこの件について本日の今日の議題、追加議案として賛同するかの審議をとって頂きたいと思います。

(濱崎理事)

ちょっと、いいですか。

(田口副会長)

ちょっと、待ってください。私が司会をしております。えと、ちょっと今言われていることは、ちょっと筋が違うんじゃないかなと思うんです。一応、今日はこれで終わらせていただいて、新たに今のようなことであればですね、提出をしていただくんですが、今現状は残った方々がですね、あのメンバーで、偉大なお二人の仕事をどうやって引き継いでいこうか、で新たに採用して、宝島としてはですね、非常に厳しい状況なんです。その中で、まああの、言われた事とか、書いてあるのを見ますとですね、これは、あの、そういった形に当たるのかもしれませんが今現状おかれている状況としては、3月までにですね、決算もせないかん、残った事業もせないかん、言う中でですね、ぜひこう考えをもう一度考え直していただけんかなと、今おっしゃった事を踏まえて、今日見ましたので、こちらの方も何らかの対応をしたいと思っておりますが、現状残った方々の、あのメンバーのですね、7人分をやっていくということなんですよ。ぜひ、これ私を含めてですけれどもね、理事の責任もあると思うとです。

(平下理事)

田口副会長、あの、おっしゃってるんで、私も全く同意見で、今から残された職員さん達が、こう本当に数少ない中で、私達理事が支えて職員さん達がいかにやりやすい環境、スムーズにっていう所で、結構大事な要素になってきてるんですよ。濱崎さんがいらっしゃることによって、余計な仕事も増える、まあ、私も、電話で何回かお話したことあるんですけども、要点を得ない、長い話、仕事も時間も取られる、何回か電話でケンカしたこともありますもんね。

(濱崎理事)

あんたとケンカし・・けんな。え〜と都合のいい時は友だちで、下田温泉の温泉を使って、一緒になんかな、天草という・・

(平下理事)

その過程は、大人のこたやけんどうでもいいんですけど

(濱崎理事)

そういうことのね、言うだけやってね、あまり長くなったのは、私は

(濱崎理事)

私何が言いたいかっていうと、今残ったもんでね、やっていこうって思ってる中で、私が今言うように、辞めたけん言えるとかね、あんた達はよ〜裏でちゃんと打合せして取っとるね〜。

(平下理事)

赤木君は本当にじくじたる思いがあって、辞めたと思うとですよ。そのみなまで、私達、その私は理事の立場でありながら、やっぱり職員さん達、ここにいらっしゃる方は同じ観光を、同じ船でまとめていこうゆうかですね、まあ、執行部の方々に方向を示してもらって、俺らやっぱり漕ぎ手だと思っているんですけども、その中で、やっぱり、だいたいここにいらっしゃる方、みんな思っていると思うんですけども、もう何の理事会するにしても、もう、濱崎さんの話、あれどがなんかせんないかん、という気持ちはみなさん、お持ちじゃないですか？あの、そのたび俺ら時間も取られて、予算もこう、なんていうかな、観光のことというより、夢ほたるにどっでんかってん、引っ張ってこようという話が多いので、非常に辟易としていつもお話を聞かせてもらっています。

(濱崎理事)

観光協会の目的がやっぱ島内にお客様を呼び込むというのが目的なんだけど、そういうことに対して江崎君とか宮下君たちは全く動いてない。だから職員達に対しても言うんだけど、

(平下理事)

もう、みなさんねお時間ないんで、あとから電話でもなんでも聞くけんよかですけど。だがそう結局、スムーズに、あの、時間がないところに、足かせになっているという私達は認識なんですよ。だから田口副会長がスムーズに年度末、予算のあれもあって忙しいとおっしゃるなら、ま、議題にあげてもらって、ここで何を決めようということではなくて、それをあげようということを決めるってということですよ？

-理事の拍手-

(平下理事)

ですよ。

(田口副会長)

上げるのはですよ、あの、理事の皆さんからなんですけど、え～先程申しましたように今からあと2ヶ月位しかなかつですよ。こんなかで、そのなかで臨時総会とかってなんとかあって、ただでも事務処理が追い付かんような状態なんで、まずは今の協会員のために私達はいるという風に、私自身思ってるんで、協会員の方のマイナスが少ないように、いかに宝島の残した仕事をやるようにしてやれるかが、あの、私達かなと。今、おっしゃったように、こうして聞くとですよ、それがあたるかどうかちゅうのかは、まあ所員とも相談してですよ。きっちりと報告していきたいと思っとつとるけど。どうですか。

(山本理事) いいですか。

要点を整理していくとですよ。臨時総会を開くための動議をあげたけれども受理しないというこ

となんで、できないということならば、次回の理事会の議案にあげたらどうですか。で、6月の総会で、議案にしたらどうなんでしょう。

(田口副会長)

その件も含めてですね、そういう方向に今日、あの、すぐに臨時総会となりますと、事務処理的に非常にそれにかかってしまうということになりますので

(濱崎理事)

田口さん、あのね、別に臨時総会をね、あの～理事は、臨時総会でないとできんとならば、総会は臨時総会ですよ、ただ元を正せばですよ、今日、いつも出てきてない連中が出てきてますよね、ちゃんとしたテープも持ってきている、何らかの話合いをしてきたと思うんだけど、まあそんならそれで、私が辞めるだけの話だけ、もったいない、臨時総会開かんでいいですね、臨時総会開かんでいいんですよ。別にですね。ただ言いたいのは、職員のための観光協会とか、一部のための観光協会とかじゃいかんし、これだけの補助金をもらっているのであれば、もう少し観光客を呼ぶ、・・・ウチあたりのために補助金を・・・という話は私は一回もないですよ。

(理事：声不明)

ん？

(濱崎理事)

自分のためにね、あんたみたいに、自分のために・・・したことはない。

(平下理事)

打合せ。まあ、旅館さんとはね、いつも飲みながら悪口ばかり言いよるけん。

(濱崎理事)

だけん

(下田理事)

おったち、自分達のお金でしよるですよ。人がいるときは。イベントでん何でん。自分達でしよるですよ。

(濱崎理事)

観光協会の話だけん、あんた個人的な話じゃないんだけん。

(平下理事)

はい。

(濱崎理事)

だけん、なんで言いたかったていうと、必要に応じて臨時総会を開いたりとか、いう必要はありません。この理事会の皆さんがそうして欲しいといえば、そうしてもいいし、あえて臨時総会を
．．．．．よかあれです。でしょ？

(理事：声不明)

はい、そうですね。

(濱崎理事)

ただ、こういう人達に残ってもらいと、困つとですよ。．．．．．お客さんを呼ぼうって意識が全くないんですから。

(古川)

すみません、自分から質問します。あの～先程申したように私は直接濱崎さんから、そういったことを受けたことはありません。なので今この資料を見て驚きつつあるところであるんですけども、ただ城下、大塚の動きはずっと見ていました。で、彼女らが突然バタバタしはじめたりする時があって、三階の資料倉庫、地下の資料倉庫あたりにずっとこもりっきり、何日もそこにこもっているなあ、何されてるんだろうなあとは思ってたんですけど、恐らく古い資料とかを探せって言われてずっと探してたんじゃないのかなと思ったんですよ。その分、時間はそこに割かれていたんだろうかと、自分の業務が止まっていたからずっと残業されてたのかなあという風に今頭の中で色々こうリンクされたというか、ていう所があって、もし、今後彼女らにこういうことを言われてたのであれば、今後の矛先は僕らになってくる可能性は高いのかなと思っていて、そうすると、それこそ先程からおっしゃっていただいているように、事務局業務が非常に今、ひっ迫していて、どこまでクリアできるか、1分、1秒でも惜しいところではあるんですけど、あの、こういうことに時間を割くようであれば、それこそ本当に報告書だったり、会計関係だったり全てがまたストップしてしまう。それだけは非常に怖いな、と恐怖を感じている次第です。以上です。

(濱崎理事)

ま、時間はないしですね。あの、今言うように、なんかあの、江崎君、平下さんが臨時総会を開いて、私、そんな、臨時総会を開く必要はないですよ。みなさん、それでいいし。ただ、三月任期までは私もそんなに途中放り投げてっていうのじゃないから、今度の任期中の時に、私の代わりば誰か選んで、総会で選出してもらわないかんですたいね。もうこうここでちょっと言わせてもらっていいですか、あの～結局は、え～相談役(泉顧問)から顔が見えないという時に、この山本会長達の範疇の仲間の女性の方(深川前理事)が、漁連には前の会長はしょっちゅう来たけども、今の会長になって1回も出てこないって、言われたて。漁連で何だと思ったと、多分会長そがん思つとるとですよ。漁連って何だろうなって．．．山本会長、いや、私は行ってないですよって言えばいいのに、黙認されてました。．．．それはなんて調べてん、何漁連ちゅうとは。自分は説明できんで辞任されました。誰かな、名前は、中田さんかな？深川さんかな。続いてその後に山本、あれが藤本会長が、前の会長、山本会長に、県の観光課にはどのくらい行っ

てますかと聞きました。月に4回くらいかなと言われておりました。私もね年4回行かないのにね、よくそういう事いえるなど、県に聞きました。県の職員に。そういう事実はないってはっきり言われました。

(田口副会長)

あの、時間もございませんので、ちょっと整理させてもらっていいですかね。私が今日議長なんです。え～まずは先程事務局がいましたように、まず、現業回復を、第一優先とさせていただいて、採用とかも含めてやっていきたいという事でご了承していただいて。で、今の件につきましてはですね、今日初めて見ましたし、テープも聞きましたんで、他に等々あれば、ちょっとテープでも後で聞かせて頂いて、対応についてはまた相談させていただくという事で、現状を回復させることを優先したい。ちゅうのは、協会の方が迷惑しとるんです。理事はいいんですよ。ここで議論をしとけば、ところが協会の方々が迷惑にならんことが最低限私達の任務かなと、第一任務かなと思っとるもんですから。ぜひ、そうさせていただければと。

(山本理事)

はい、あの～今、ちょうど私の方に飛び火をしてきたっです。もう私の会長の時も気に入らなくて文句出るのも面倒くさいんですよ。本当に。会長の時やっけんが、言わんやっばってん、本当に面倒くさい。あの、濱崎理事、一緒に辞めましょうよ。私も辞めてよかけんが、別に。理事に執着してるわけじゃないので。

(平下理事)

俺も辞めてもいいです！

(山本理事)

面倒くさいんですよ。本当に。だけん、一緒に辞めましょう。だけん、若い人たちにさせましょうよ。それでよかですよ、全然。

(濱崎理事)

待って・・・まだ

(山本理事)

いや、もう、面倒くさかって、本当に

(田口副会長)

いいですか、最後に。色んな方がおってですね、それを話し合っていくとが理事会かなと

(山本理事)

二人で・・・よかじゃなかですか。好きなようにしなっせ。

(平下理事)

話し合いにならんですもん。

(田口副会長)

いやや、あの～

(山本理事)

俺がま～た、俺ばかり言って、俺関係なかもね。ねえ。俺が会長の時は、10年も20年も前のヨーロッパに行った話ばしてからさ、面倒くさかって。

(田口副会長)

まあまあ。

(濱崎理事)

前の事務長とのテープばとって・・・

(山本理事)

それでよかじゃなかですか。だけんここでそがんいいましようよ。もう今度で辞めましようたい。それでよかつじゃかですか。もう二人でやめればよかつやけん。

(濱崎理事)

人というか、自分の判断でましよう。あんた、あんた、辞めればよかもね。

(山本理事)

違う、違う、自分が辞めるて言うたけんたい。

(山下副会長)

いや、辞めるっておっしゃったのと、私が聞きたい、まあ

(平下理事)

辞めさせたかつやろ

(山下副会長)

聞きたかったの、勝手にやられてる事業とかですね、あつて、これ濱崎さん関わってないですか？天草婚活イルミネーションナイト。

(濱崎理事)

いえ

(山下副会長)

全然？

(濱崎理事)

全然

(山下副会長)

全然、やってくれということはなかったですか？

(濱崎理事)

言ったこともないし、要望したこともありません。

(山下副会長)

ないですか

(濱崎理事)

はい。

(山下副会長)

これ、勝手に主催事業として行われてるんですけど、それ下田は関係ない。

(濱崎理事)

下田温泉で企画はあったな、観光協会じゃないですよ。で、それは中止になったんじゃないの？

(山下副会長)

ん？

(濱崎理事)

中止。下田温泉で

(山下副会長)

中止しても予算出てます。広告出してるから。

(濱崎理事)

それは、知らんですね～

(山下副会長)

いや～、そうなんですよ。困った話なんですよ。ほんとに。

計画書も出てないんですよ。この資料を見ると、こういう事が行われると非常にヤバイ。背任に

なりかねない。

(福田事務局長)

よろしいですかね。

あの～、その伊ミネーションの婚活事業については、私の方でちょっと説明させていただきたいんですけど、これ当初は、最初に、昔はですね、伊ミネーションの中の予算で行われていました。ただ、今回、あの～コロナも明けて、復活したいなという声があるということ、私の方でお伺いしまして、

(山本理事)

それ、誰からですか？

(福田事務局長)

はい？

(山本理事)

誰からですか？誰からお声があったんですか？

(福田事務局長)

それはですね、下田の方達からは伺いました。まあ、元々、下田の方でやられてた事業だったので

(山本理事)

そうじゃなくて、一般の人たちですか？

(福田事務局長)

あ～えっと～理事さんの中からです

(山本理事)

それを何で言わないんですか？

(福田事務局長)

あ、すみません。はい。

(山下副会長)

よく私の所に問合せが来るんですよ、こういうのが。

(福田事務局長)

はい。

(山下副会長)

主催事業なのっていうの

(福田事務局長)

あ～わかりました。あの～すみません、それで、実を言うと、これは一応、藤本会長から私はお伺いしました。で、

(山本理事)

会長からって

(福田事務局長)

で、元々は、レジャー事業の中でやられてた話だったんですけど、まあ、せっかくやるのであればですね、せっかくやるのであれば、私、観光協会の事業としてツアーにしたかったんです。最初は。で、その旨をちょっと、うちの中で、実はちょっと野下君も含めて動いたんですけど、なかなかそういう風な・・・

(江崎理事)

局長、ありがとうございます。またその辺は、どうか資料で経緯を出してもらえればと思います。本日は理事会です。あの理事会ですので、決をとるという部分があります。まあ、さきほどこれに対しての申し出、これに対しての言い訳、なのかちゃんとした理由があるのであれば、それを出していただいたうえで3月の理事会で諮ってもいいんですが、まずこの件をしっかりと理事会で諮るのか、ただ理事会で諮った所で解任はできません。定款上。総会にかけないと解任できません。

(濱崎理事)

だけん

(江崎理事)

この件を、しっかり決をとって

(濱崎理事)

ちょっと待って、江崎さん、この問題についてはね、これ理事会で論議する問題じゃなくて

(江崎理事)

ですので、ちゃんと、今日顧問弁護士入れましたよね。

顧問弁護士を協会の方も入れておりますので、弁護士通してしっかり文書を出していただく。それに対しての回答を弁護士さんの方に出していただくというような処理を、ちゃんとしっかりやってください。

(濱崎理事)

じゃ、あなたは、会長、私は・・・あのね、今言うように、私は総会で承認を受けているんだから、臨時総会なんてやる必要はないし、ただ次の任期、総会まで待って、私は自分事は自分で考えますよって言うだけなんですよ。

(江崎理事)

それはご自身のただの意見でありますので、この理事会でこういったことを職員に対して許すのかっていう所を協議していただきたいんです。

(濱崎理事)

それは問題なかな、私は、私自身の進退についてね、あんたたちがどうこういう問題はないね。私が判断するだけやって、今言うように、職員の前の局長のテープを取ってね、いかにも私が今回の問題、城下さん3人が辞めたことで、私がなんか関係あるとかな～って思って、な、いうならテープば出してくれって言うだけやって

(下田理事)

山本さんの話ばせらすじゃなかですか、前の話ばさすからですよ、赤木さんの話も一緒ですもね。前の話ばすとなら一緒でしょ。結局、今赤木に話したとば、今の風にしてほしくなかつちゅう話ばみんなしよっちゃなかですか。それがみんな、事務員が怖かけんが、あがそがんことば皆に言わすとやかっですか。

(濱崎理事)

そがんと、入ったばかりの人間じゃない・・・怖いことのあるか・・・ただ、今言うようにね、今日よくわかったのは日頃理事会に出てこん人間がよう出できておんなはると思ったたいな。

(下田理事)

それは事務員ば守るために、みんなが、がんせなんいかんごとなっただけやなかっですか。これ以上辞めてもらったらいかんちゅうことで。

(濱崎理事)

頑張ってもらえばいいんです、ただですね。職員のための観光協会じゃないということだけはずね。

(下田理事)

その職員が嫌がとととじゃなかですか。

(濱崎理事)

職員ね

(平下理事)

俺ら職員さんの為にとかじゃなくて、職員さんがちゃんと働けないと観光協会のその他の人たちもどうしようもないんですよ。で、まずは、職員さん達が力発揮できるというか、恐らく観光協会に入られて、こんな仕事の仕事やったんか、と思われてる方がいっぱいおると思うんですよ。なんかこう事務処理というか小間使いというか、観光のことを考えるというよりかわですね。

(濱崎理事)

まあ、よかですよ。今の話の中で私に飛んできたんで、なんか今日のほんな3人の話は最初は局長の、なんで、本人たちは一身上の都合って書いてあったんだけど、それが結局みなさんには個人個人に伝わっているということですよ。そういうことでしょ。

(山下副会長)

まあ、そうとも限らないんじゃないですか

(濱崎理事)

今の話じゃ、ちょっとそん待ってください。

(山下副会長)

入ってない。入ってない。だって、私相談されてないから、さっき言ったじゃないですか。相談しなかったって。裏からもれるからって、だから私、相談受けてないんです。

(濱崎理事)

で、もう一つあの

(山下副会長)

で、客観的に

(田口副会長)

あ、いいですかね。もういいですかね。今日私が議長ですんでね。理事のみなさんのご意見は、通常通り、意見書として出して頂いて、で、あの～、資料を精査させていただいてですね、例えば執行部で一度議論をいたしましてですね、で、理事会にかけるなら、理事会にかける、理事会にかけた後に、総会にかけるかどうかとか、そういった方向に進めていただいているといいですかね。今日はまだあの、これ見られた方も、今日見られておりますし、私も今日拝見をさせていただきましたので、そういった形ですすめさせていただくという形でよろしいですか。

(古川)

ひとつ、いいですか。えと、いろんな話を踏まえてなんですけど、もし今後、例えば3月までの間にいろんなやらなきゃならない事がある中でこういう事があると絶対立ち行かないので、そういうことは事務局では今後受けられないということだけは、先に伝えておきます。えと、濱崎さんだけじゃなくてもですね、10年前の資料をあさってどうのこうの、そういうことは、すいませ

ん、申し訳ないですけど、今の現状できません、ということだけははっきりお伝えします。

(田口副会長)

はい、じゃ。今日はこれで閉会をいたしますけども、よろしいですか。

(山本理事)

ひとつだけ、あの、理事会も総会も、協議事項とか審議事項があるじゃないですか。これっていうのは、執行部だけが決めるんじゃないかって、理事から動議があがったら受けないといけないと思うんです。なので

(田口副会長)

まあ、その辺も

(山本理事)

その辺もじゃなくてですね、もし執行部の方で、これは理事会にかける案件ではないって、3月とか理事会に上がってこなかったら、総会で緊急動議を上げさせてもらってもいいですか。

(田口副会長)

あの、その辺・・・

(山本理事)

これは、許可はいらさないんで、はい。なので、そのぐらいの気持ちでやっぱおるといふ風なことだけは、執行部でわかっていただいて、そこを含めて理事会で協議をしないということであれば総会で直接、総会で動議を上げさせていただきますので。今、こんだけ若い人が頑張っているの、この動議は私が上げますので、はい、それは、もう宣言させて頂きますんで、そのつもりで理事の方も考えて頂いて、それで総会で決をとればいいんじゃないですかね。はい。

(濱崎理事)

長くなったついでによかでしょうか、今の問題が今日ですね、職員が3人退職したと、後どうやっていこうかという問題のが直近だったと思うんですよ。局長も問題が出ました。で、私らにとっては、一方的な話なもんだから、局長にも、結局、私思うんだけど、局長別室にやって、私仕事しますって、そういうのがね、普通の会社でありえるかって思うし、たとえば彼女達にしろ城下さんにしてもですよ、一応ちゃんとですよ、12月にボーナスが出るわけで、有給休暇があるけんて、もう休むって、私は道義的な問題があつとやなかるうかなあと、私個人ですよ、個人に問題はなかとですけどね、そういう問題があるとやっぱり、仕事しよる、しよらんとかわかりませんけれども、ただ今まで色んな観光宣伝に出て来んじゃないですか、こちら精一杯観光宣伝に行こうとしてもですよ、出てもこない、局長がお願いしても出ん、この前のRKK祭りなんかも、よそだってでてきても、出できませんよ、なんもね。私、宣伝、一円やったり宣伝チラシ配つとるですよ。全く職員出てきませんよ。職員は、そういうこと考えただけで、まあ職員も頑張っ

おらないかんのですけれども、もう少し理事さん達も観光協会の委員というのを考えてもらって、私なんかも年齢的にもうちょっと長くなりますので、ちょうど交代するのがいいんですけれども、まあ～、まあまあ～にしとくとこの観光協会というのはまあ先が厳しいなと思っております。それだけです。

(松本理事)

ちょっと、最後に一言。えっと～ですね、濱崎理事とはだいぶ古か顔見知りですけども、あの～これはですね、この事務局問題だけで、上がった話じゃなかつたですね。というのが、本人を目の前にして言うのはいかなものかと思えますけど、今までの意見を聞いて、あの～濱崎理事、もう何回か、観光協会に対しての、自分の考えで行動をされて、いろんな宣伝かれこれをやられたことがありますよね。で、何回か理事会で、濱崎理事、こういうことは観光協会に一回相談していただいて、理事会で協議を受けてすべきじゃないでしょうかね、とうことを言われたことがありますでしょう。

(濱崎理事)

ここでないでしょう。

(松本理事)

いや、ここ近くじゃなくて、あの近場じゃないんですよ。今までの天草宝島観光協会がはじまってから、あなたがね、いっぱい元気出してね、やろうとする気持ちは私達も分かつたです。で、ほいけん予算ばちょっとでもよけいにいただいてってような感じでですね。私はあなたの意見は非常にいいと思いますけれども、ただ、あなたの欠点を一つ、私から言わせていただければですね、理事会の承認なし、天草宝島観光協会の承認なしで、天草の市のあれじゃなくしてですね、直接自分がアピールする、そしてアピールしたのを天草宝島観光協会の名前を使ってアピールしておられたことがね、ここ何回かありますでしょ。そういうことがね、やはり、今までの会員さん達の中から、理事の中からでもね、聞こえてきてるわけですよ。それを、だからこういうことが積もり積もって、今度の事件に、尾がついた、火が付いたと思うんじゃないかと思っております。だから、これを私からあなたに辞めろという権限はないけど、やはりこういうことがあったから、今度のことがあったからですね、何らかの形で答えを出していただだけませんかというのが、私は今、この執行部、意見がでている問題じゃないかと思うんですよ。

(濱崎理事)

よく、わかってますよ。そこはね。わかってますよ。けども、え～ま～一応、江崎さん達にしてもね、観光のために・・・とらないかん。

(江崎理事)

あの、すみません。やはり、ちょっと。しっかり、決をとっていただきたいんですよ。理事会ですので、理事会は何のために参加してるかって賛成なのか反対なのかしっかり挙手をする場がありますので、理事の皆さんは。この濱崎宗治理事に関して、理事会が先程何回も言いますが、

解任はできないんです。解任をするための総会を開こうという所しかできないんです。そこまでしかできないので、そのあとはご自身で考えられてください。

(濱崎理事)

江崎さんて、ちょっと、あんたは、

(江崎理事)

あとはそれに対する返答をしていただきたいと思いますので、しっかり決をとっていただけないでしょうか。

(濱崎理事)

決をとらんど。今何回言ってもわからんなあ。あのね、理事というのはあくまで総会で・・・で理事会は事務局じゃないんですよね、私は来年、と今年は総会ありますよね。総会は。

(山下副会長)

6月ですね。

(濱崎理事)

そん前、みな、理事は解任するわけですから。辞めるんですよ。一回みんな、任期がきたらですね。今回の任期は2年になりますよね。あとちょっと残ってます。任期が。2年ですから。総会の前にね、辞任をするのは可能だし、またそこで新たにやることも可能だけんが、問題ないと思うんですよ。そこをその、あーたはこの理事会でどうしようこうしようという資格はないし、

(山下副会長)

いや、理事からあがった動議については、きちんと決をとらないといけないんですよ。

(田口副会長)

ただですね、え～今までもそうですけども、提案理由についてはですね、総会、いや、この理事会前に書面をもって通知をするということになっておりますので、そういった面からいけばですね、じゃ、その他の欄でなんか手を挙げて、その議決をするというのは、ちょっと定款法則に従って違うのかな、で、それも弁護士がおりますので、そのあたりもよく

(山下副会長)

あ、弁護士に確認済です。あの、弁護士にしっかり、今回顧問弁護士を協会の方、濱崎宗治理事の紹介のもと入れて頂いてます。あの～ですので、今回そこに、今日の午前中もこういったものを出していいのかわ、全て確認をとりました。ただ、この理事会の場で決を取らないと、私も動けない、協会の顧問である、動きが取れない。と、ちゃんと伝え、しっかり決を取っていただいて私は動きますという、じゃないと、あの、濱崎理事のこれに対する意見を、私も受け取ることがこの状態ではできない、結局は先程言われた通り事務局に全部行くんですよ、これに対する

理由、あ～だ、こ～だっていう

(濱崎理事)

ちょっと意味わからん

(江崎理事)

なので、一旦、決をとっていただいて、あとはしっかり弁護士に任すっていう

(田口副会長)

あの、各人が弁護士に聞かれたって言われてもですね、それは協会の執行部が確認させていただかんとですね、弁護士がどういう形でどういう風に説明したかがわかりませんので、今日の話に基づき執行部で弁護士の所に行って確認をさせていただきたいという風に思っています。ちゅうのは、各人が言ったって、自分の話しかさっさんわけですから、できれば執行部ですね、弁護士の所に出向きまして、でこういう事ですよと確認させてもらえればという風に思ってます。それは議長としての

(江崎理事)

それは動議を拒否するっていうことでよろしかったですか。

(山下副会長)

拒否するってできるんですか。そもそもこういう場合。法的に問題があるのか

(田口副会長)

いや、その辺は、確認せんと私も 100%わかりません。ただ、議長としてですね。今のところ弁護士さんの方にも確認して

(江崎理事)

動議にあがった場合は、この動議を一回理事会で諮るんですよね。そのための理事会です。この動議について話し合いますか、みなさんどうですか、という挙手をしっかり取るのが動議です。

(田口副会長)

宝島の今までの道理としましては、議案を出して、で、理事会としてみなさんに通知をして、そして理事会にかけるといふ風になっておりますので。たとえば、以前

(濱崎理事)

議長、

(田口副会長)

ちょ、ちょ、ちょっと待ってください。江崎君が議長をしている時に、濱崎議員が何らかの件を

ご提案されたんですよね、理事会やからと、その時の回答は見てもらえばわかると思いますけど、ちゃんと理事会の議案として提議をされて資料も出されて、で、やってくださいということを

(江崎理事)

私が濱崎宗治理事から受けたやつは、いきなり突発的な予算を要求してきた件ですね。で、この要求を出したいのであれば、理事会はまずしっかり動議を上げる、こういう案件を話したいんですけど、よろしいでしょうかという、ただそこで動議を理事の皆さんに諮るという、これらが理事会なんですよね。そこでしっかり拒否されれば、その件に関しては話せないんですけど、そこで

(濱崎理事)

議長、これ何回目かな。

(江崎理事)

理事の皆さんがしっかり賛同すれば、その件についてしっかり話を

(濱崎理事)

今もね、今日の議題はあの今いうように、3人が退職されたと、あとどうやっていこうかと、残った職員でやっていくにはどうしたらいいかというのが1つですよね。こん中で思ったら、私の方から問題があつということであればですよ、理事会の、わざわざ臨時総会にかけんでも、自分の判断でできるわけですよ、それ何回言ってもわからんとですよ、自分で判断しますよって言いよるとにねえ、わからん自分の判断

(江崎理事)

判断できないから、こういった形で全部出させてもらっているんですよね

(濱崎理事)

理事の解任ということを今、思っているから当然判断しますよと言って ん～逆に今日この場で辞任しろってということ？

(江崎理事)

辞任は要求も何もできません。

(濱崎理事)

だけん、動議も出しとるんもできんよ

(山下副会長)

いや、動議出して、総会で可決されればいけますよ

(濱崎理事)

いや、総会よ

(江崎理事)

総会です

(濱崎理事)

そん前にこっちは

(江崎理事)

なので、総会ば開きましょうという話をしているんです

(濱崎理事)

だから、いえ～、なんか臨時総会あたりを私のために開くよりも、わが判断でね、ちゃんと辞任すると言うてるんですよ。

(竹地理事)

臨時総会開いていいんじゃないんですか。

長年しとらすけん、結局、白黒はっきりして、長年しとらすけん、はっきりして、それで今日はもう終わらしましょう。

(山下副会長)

それはよかと思います。

(田口副会長)

何ですか、臨時総会ば開くということですか。

(平下理事)

それを議題にしてもう一回開くのかっていう決をとる

(竹地理事)

はい、もう長年しとらすけん、もう納得するごてした方がよかつじゃなかですか。

(田口副会長)

いや、だけんですよ。

(竹地理事)

そがんと、今日もう終わらんですよ。

(山下副会長)

総会、年度またいでも大丈夫。

(竹地理事)

大丈夫と思うです。

それでよかつやなかですか。この文章も今日もらって何がなんだかちょっとわからんけん

(田口副会長)

だけん、預らせて頂いてですね、私達もですね、今あの、江崎理事が言われたように、弁護士さんところに行かしたと言わすとばってんが、私らも一緒に行つとらんもんですけん執行部も、だからきっちり確認をさせていただきたい、

(平下理事)

ずっと、入れ違いなんですけど、今日ここでそれを決めちゃおうということではなくて、次の議題に、あの～、今日帰ってもらって、これしっかり読んでもらえばいいわけですよ。ここで決めるんじゃないくて、で、濱崎さんの味方する場合もいいし、どうかは、次のなんか総会なり、私は詳しくはわからんとですけど、その議題にあげませんか、というのを決めましょということですよ。

(田口副会長)

それは、あの～、理事の方が議案として、動議として出していただければ、執行部に來るわけですよ。

(平下理事)

あ～だけん、ここで多数決いらんてこと？

(深川理事)

だけん、今、だから今、その動議を出してるんでしょ？

(田口副会長)

その、動議を出される、出し方がですね、本来であれば、そう理事会の中ですから配布前に今の動議内容を含めて提出をされるべきです。

(平下理事)

難しいなあ

(田口副会長)

はい。

(宮下理事)

全部、事前通告しか受けない？

(田口副会長)

はい、今まではそのような形で回答をしている所ですね。

(下田理事)

そればせろば、次からはできるってこと？

(田口副会長)

だから、通常通り、はい、

(下田理事)

決はいらんてことやろ？

(江崎理事)

その、3月にこの件に話し合いますっていう所を、しっかり理事の皆さんで、しっかり挙手をとらないとダメです。

(下田理事)

あ、ダメ

(江崎理事)

なあなあで、執行部任せにしてしまってはダメです。理事の皆さんでそれを一回、決を取ってちゃんと上げるという部分を諮らないと

(宮下理事)

執行部抜きにして理事で決めたことば、上げるとはオッケーだけん、今こればよかったです

(江崎理事)

本来であれば理事から上がっているのに、そこで拒否してる部分が、そもそもおかしい部分であります。

(田口副会長)

拒否をしてるわけじゃないんですよね。今までと同じような形で申してるという形ですよ。で、弁護士に言われましたけれども、弁護士に行かず時に、それは事務局なり執行部と一緒に立会ったけば、話がわかってですけど、現状、田沼先生から言われたとも、江崎さんが聞かれたわけですよ。

(江崎理事)

ですね

(田口副会長)

え～今、こちらで確認ができておりませんので

(江崎理事)

弁護士さんは理事会で決をしっかり取って決まったものじゃないと、これは動けないと、先程からもお伝えしてるように、私個人がこれ今の状態では宙ぶらりん状態で、私個人でただ言ってるような。

私個人で弁護士さんをお願いしたところでは、弁護士さん動けないんです。協会の顧問なので

(濱崎理事)

江崎さん、あのね、そんな

(江崎顧問)

ですので、理事会でしっかりと顧問弁護士に任せるという部分をしっかり決を

(濱崎理事)

議長、この問題で、みなさんにわからないし、結局さ、私は辞任、辞任に追い込みたいって、いいんです。辞任したって。全然問題ないんですよ。何も私見栄もないしですね、いいんですよ。

(田口副会長)

いや、先程、お二人とも辞めるとかですね、それはそれでいいんです。ところが、宝島としては法にのっとってきっちりやっていないと、前例になったりするものですから。あの、きっちりと確認をさせていただきますと申し上げます。

(江崎理事)

前例で

(濱崎理事)

一方で理事会が監査等でそうどつき事務局が・・・私も今向かってますということで、今集まらんけん、今どこですかってですね、だけが、そういう問題はあるし理事としてちゃんとサインしたりしたらいいのかな。今日は集まっていますよ。ビックリするように。

(平下理事)

ですよ。辞めさせに来たっですもん。こっちは。

-笑い声-

(平下理事)

忙しかとに

(田口副会長)

いや～だけんですね、え～どなたであっても、同じ回答を議長としてはする。しております。します。わかりません。判断には。弁護士が言われたと言われてもですよ。私が確認できとるわけではございませんので。もし、こういう事を確認しといてくださいってあれば、それはそれでできるんですけれども。なかなか。議長は私ですんで。

(濱崎理事)

議長、あのね。こういう動議、話があると、完全に良いことであって、ちゃんと江崎君とか平下さんの望むようにしたいと思うけれども、まあ、それで結局抜けて、また理事会が集まらないという責任があるからですね、いつも顔が利くとはおらんとやけん。誰も来んとですけん。よその人なんか。

(下田理事)

俺のことや

(濱崎理事)

違う

(宮下理事)

3人辞めたけん、どがんかなあということで、俺らは呼ばれて来たんですよ。

まあ大事なことに、濱崎さんが来るけん。

3人事務局が辞めたけん、どうにかしましょっていうので、会議に今度来てくださって。来たら来たらで文句言われるって、なあ。

(濱崎理事)

バツバツバツで今日でとるだけやっか

(田口副会長)

もう、よろしいですかね。

(下田理事)

・・・おったち、関係なか

(宮下理事)

俺たち経営者

一人親方だけん仕事の時もありますよ

(田口副会長)

じゃあ、よろしいですかね。すみません、先程、私が申し上げたように、一度動議は動議であげていただくと

(山本理事)

次、理事会はいつですか？

(田口副会長)

あの～通年であれば、あの～予算が確定した時、3月の中旬から末に開いております。

(山本理事)

その時に、今の動議を上げたら議題にされるということですよ。今からあげとっていいわけなんでしょ？そしたら、もう議事にはなるんですね。執行部で精査する権限はないですから。

(田口副会長)

その辺も含めてですね。

(山本理事)

含めてじゃなくて。理事から動議が上がれば受けないといけないので、そういう風に事前にすればいいってことですよ。

(松本理事)

ああ、いや、そうですよ。そうです。理事から意見が出れば必ずせにやいかんとですよ。そういったやつば執行部で決めるってほうが間違っとる。

(濱崎理事)

議長、めがのとばりからですね、この問題でごたごたして、理事会で決めるとか臨時総会開くとかじゃなくて、私の考えで、私もですね、自分で辞めることは何も問題もないんですよ、山本議員も・・・で辞めそうになった時に、あの。逆に、あのいいですよ、全然。

(山本理事)

こっだけ、一生懸命時間使ってますよ、どうにも受けられんていうなら、次回の理事会でちゃんと話して決めてから解散しましょうよ。話せばよかでしょ。それば執行部が受けて、なんたらかんたら言うけん、信用しとらんだけであって、だけん受けますって言えばよかじやなかですか。手続き上の問題

(下田理事)

なんばいいきらんとでしようかね、受けるっちゅうだけやろ

(山本理事)

それでよかって言うていただければ、それで進めればいい

(山下副会長)

それで信用されないのもある

(田口副会長)

信用される・・・というのはですね

(山本理事)

言えばよかじゃなかですか

(田口副会長)

いやいや、私は議長として、それだけ、きっちりと回答をできるあれば、ないというだけです。

(山本理事)

そりゃ、大事な事やけんですね。

今、上がった時に動議として認められないって議長さんが言わすけん。ひっこめていいじゃないですか。ただし、次の理事会の時にはどういう手続きで動議をあげれば話し合うか示して頂いてそれに則ってきちんと出せばいいわけだから、それで終わらしましょうよ。これが、どがん話したって平行線だもん。結局、話すつもりがないってことやけん。次回の理事会でしっかり話しましょうよ。その時にフォーマットがあるなら、フォーマットば出せばよかし、手続きがあるなら、手続きを示してください。それでいいじゃないですか。本当に。

(田口副会長)

じゃ、よろしいですかね。今日はこれで。

(山本理事)

なので、次回、話すということでもいいんじゃないですか。

(古川)

まあ、話が決まらないようなんですけども、先程も申したように、えと、こういった事が起こらないように、今後、僕らに電話でも、直接来社でも、そういったケースは一切お断りしてもよろしいですか？そこだけ、ちょっと確認を取らせてください。

(江崎理事)

弁護士さんに委託するってということだけでもしっかりとってもらっていいですか、私もこれ以上電話来られても困りますし、私もこの資料作りを追われても、もうするつもりもないので、私はそのまま、顧問弁護士にお渡しますので、顧問弁護士さんの方に濱崎理事も問合せをしていただいて、事務局じゃなくてですね。

(濱崎理事)

あなたと話そうとも思っていないし、言うことわからん。結局、私が反対してみなさん・・・していいわけなんだから

(山本理事)

さっきの話はですよ、濱崎さんにじゃなくて、私達理事も含めて、事務局に直接いろんな事を聞いたり話したりするなっていうことやけん、理事のみなさんに事務局のみなさんに言いたいときはですよ、会長に言いましょうよ。そして会長から言っただけによかよ。それならどう？ねえ、会長が判断すればよか

(濱崎理事)

理事として、職員、職員、・・・というのはちょっとおかしいなあ。

(古川)

これを見てですね、確かに、大塚、城下の動きを見てた側からすると非常に怖い、恐怖かなくて。これが

(山本理事)

ここの理事のみなさんはですよ、直接事務局に

(濱崎理事)

あなたは、あなたは知つとるでしょうが

(山本理事)

会長に言えばよかじゃなかですか

(濱崎理事)

中に入っていかんで、外でちゃ話さんから、状態知つとるでしょうもん

(山本理事)

事務局には電話せんと言ってくださいよ。そうすれば、事務局も安心して仕事ができるって言いよるとだけん。

(田口副会長)

はい、今、事務局からお願いですけど、直接はしないっていうことでよろしいですかね。はい。

(会場内の各理事) はい。

(田口副会長)

じゃ、これを持ちまして終わります。

(会場内の各理事)

おつかれさまでした。

(2 : 38 : 32)